アディダスで正しいテクニックを身につけたい。





3155 Napoli
ナポリ
●ベロアレザー甲皮●赤×白
●シェルソール
¥8,500(標準小売価格)

3150 Athen
アテネ
●ベロアレザー甲皮●青×白
●シェルソール
¥8,500(標準小売価格)

デンマーク・ワールドチャンピオンシップでも、優勝ドイツチームを始め、世界16ヶ国の代表選手の78%もがアディダスハンドボールシューズでした。そのヒミツは、誰にも負けない経験と実績、そして技術開発力を背景に、世界のトップ選手のアドバイスを商品開発にダイレクトに生かしているからに他なりません。ストップ、ターン、グリップに理想的なアディダス独自のソール設計。足への文句のないサポート感。加えて、足を良く守るヒールカウンター、パッド…。大切なゲームであなたに必要なのはこのアディダス機能です。

adidas® ®

The science of sport.

The all-sports people



●お求めはadidas特約店で

発売元  兼松スポーツ用品株式会社 〒532 大阪市淀川区木川東2—5—3 ☎06・305—1431
〒130 東京都墨田区緑2—12—3 ☎03・634—1411

全日本高校選抜

山陽路で春の高校ビッグイベント

高校ハンドボール界春のビッグイベント・昭和54年度全国高校選抜大会が、3月26日から28日までの3日間、徳山市体育館・徳山高校体育館で行なわれる。参加校は全国9ブロックから勝ち進んだ男女各9校に、開催県の代表が加わっての合計各10チームのトップチームを集めて、トーナメント方式によって行なわれ、激戦が期待される。参加校の前評判などを探ってみよう。

〔男　子〕昨秋の宮崎国体一位の氷見は、伝統あるスピード豊かな攻守を新メンバーにそっくり受けついでおり、試合運びも巧く連続タイトルに挑む。

同じく二年連続タイトルを狙う昨年本大会優勝、中大附属は実力伯仲の関東地区から激戦をのり気っての出場。180㎝台の大型パワーヒッターを揃えた上に、都会的な巧技を加えて多彩な展開は抜きん出たものがある。この両校の各パート代表が前評判ではあるが、これに追随するは△二年連続出場の中国代表の修道、中学校からのメンバーでコンビも良く、ゲーム慣れしており、左腕のパワーヒッターと個々のテクニックでは参加校随一。

二年ぶり出場権奪還を果した。此花学院は比較的小柄なチームではあるが、脚力を生かしたスピードプレーに、巧技を加えたバランスのよさと粘りは、一本勝負にはもってこいである。

三年連続の常連、県岐商は、全員が個性的なテクニックを持ち、スピード豊かな攻守は新人ばなれしている。試合展開も巧く、今年もダークホースの一つだ。

新居浜工も常連仲間、夏の大会が開催県だけに、強化も順調で安定感がある、リズムをつかめばバラエティな攻めを発揮できそう。

中大附戦が大勝負である。

地元の名門・岩国工は夏のメンバー4名を保有し久々に全国上位の実力を備えての登場、全員平均しよまとまりのある攻守は春から冴えそうである。

東北の雄に久方ぶりに返り咲いた。学法石川の闘志も侮れない。攻守の安定と試合運びも巧く、チームカラーこそ地味だが安定感はある。初戦から全力投球をかけている。

初出場の栄冠をつかんだ、釧路湖陵は一回戦からトップクラスとの対戦で苦戦は免れないが、大型選手を一年ごしで耐え、攻防両面でまとまりを発揮できれば、大いにもつれよう。

今年最も激戦地区と言れる九州から初出場の大分電波は大型選手の攻撃力とスピードプレーに新チームとしては抜きんでた力を有しているだけに、今年のダークホースとしての評判は高い。

〔女　子〕この大会二連勝を狙う小松市女、小柄ではあるがスピードを生かした巧技はすばらしく攻守と厚みと幅ができた、全員平均した攻撃力は春から冴えそうである。

熊本市立は二年連続出場、激戦区を勝抜いての出場だけに、一戦を突破すれば優勝も、の声。伝統の粘りと切れ味の良い多彩の攻めが発揮できれば、大いにもつれそう。

夙川学院は一試合毎に強さを増し、お家芸の速攻も磨きをかけると共に大型選手主軸のパワーヒッターとコンビプレーは新チームにめずらしいほどの幅がある。

山陽女子は初出場組のナンバーワンとの下馬評、実力伯仲のパートだけに初戦から大勝負。攻守のバランスも良く、スピードある試合運びで一気に最上位への期待をかけている。

宿願の北海道制覇を、新人らしからぬ多彩なコンビプレーで果した上磯は、その勢いをなんとか今大会にもち込みたい意気込みである。

地元からは古豪・徳山、この大会三年連続の栄と開催地の声援を背に小松の連勝を阻み栄冠をねらう一番手の名声が高い。切れ味の良い速攻や技巧・固いディフェンスと好材料を持している。

市邨学園は本大会初出場、宿願果たし燃えている。持ち前の切れ味の良い速攻が冴えれば、地元徳山戦はもつれそう。

三年連続を果した新居浜商、四国予選を例年になく苦戦しただけにじっくりと策をねり、伝統的な足を生かした攻守に磨きをかけて乗りこんでくる。

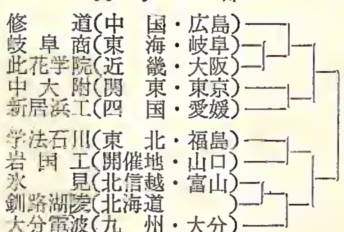
激戦区関東を制し宿願かなった和洋女大付は新鋭ながら好守に厚みと幅を持ち、勝運と実力をこの大会に持ち込み一気にベスト4をねらっている。

初陣の大曲農は全員よく走り、これといったポイントゲッターはいないがコンビのあるプレーをする。地理的ハンディもあり、苦戦は免れないが気力で臨み一勝を期したいところだ。

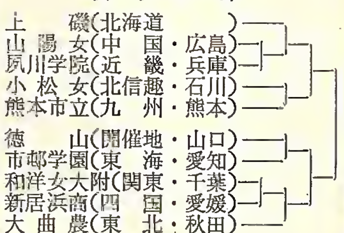
大会当日には、選抜大会にふさわしい熱戦が繰り広げられるよう各チームの健闘を期待する。

―全国高校選抜大会組合せ―

男子の部


修　　道（中　国・広島）
岐阜商（東　海・岐阜）
此花学院（近　畿・大阪）
中大附（関　東・東京）
新居浜工（四　国・愛媛）
学法石川（東　北・福島）
岩国工（開催地・山口）
氷　　見（北信越・富山）
釧路湖陵（北海道　　）
大分電波（九　州・大分）

女子の部


上　　磯（北海道　　）
山陽女（中　国・広島）
夙川学院（近　畿・兵庫）
小松女（北信趣・石川）
熊本市立（九　州・熊本）
徳　　山（開催地・山口）
市邨学園（東　海・愛知）
和洋女大附（関東・千葉）
新居浜商（四　国・愛媛）
大曲農（東　北・秋田）

各地区で熱戦が繰り広げられる

各県予選第1位チームを集めて行なわれた第3回高校選抜大会各ブロック予選は北海道予選を皮切りに2月17日の四国，東海両ブロック予選まで，全国9ブロックで熱い戦いが繰り広げられた．そしてこの男女各9チームに加えて開催地（山口県）代表各1チームも出揃い，いよいよ新シーズンの幕開けを告げる高校界のイベント・春のセンバツを待つお膳立てが出き上がったわけ．さて80年代の高校界をリードする強豪は…？　男女20チームに熱い眼差しがそそがれる“春”である．（組み合わせと大会展望は1頁参照）

第3回高校選抜大会各地区予選

北海道地区予選

▽男子・一回戦敗者
名寄工、札幌北陵、帯広柏葉、室蘭栄、室蘭東。

▽準々決勝
室蘭工 20－14 旭川東
函館有斗 11－8 釧路商
札幌西 21－7 紋別北
釧路湖陵 21－13 函館大谷

▽準決勝
函館有斗 24（13－4, 11－4）8 室蘭工
釧路湖陵 21（10－6, 11－8）14 札幌西

▽決勝
釧路湖陵 11（3－2, 8－4）6 函館有斗
（釧路湖陵は初出場）

▽女子・準々決勝（一回戦）
上磯 14－11 釧路江南
恵庭南 9－2 函館女商
釧路湖陵 22－6 登別

▽準決勝
上磯 11（5－1, 6－2）3 室蘭東
釧路湖陵 9（7－5, 2－3）8 恵庭南

▽決勝
上磯 9（6－4, 3－2）6 釧路湖陵
（上磯は初出場）

東北地区予選

▽男子・一回戦
真室川（山形）13（6－9, 7－3）12 盛岡一（岩手）
野辺地（青森）25（8－10, 10－8, 3－1, 4－0）19 仙台育英（宮城）

▽準決勝
学法石川（福島）18（7－5, 11－4）9 真室川
大曲農（秋田）14（10－5, 4－8）13 野辺地

▽決勝
学法石川 16（6－3, 10－5）8 大曲農
（学法石川は二年ぶり二回目の出場）

得	【学石】		【大曲】	得
0	川井	GK	佐々木	0
0	鈴木朗	GK	大土谷	0
3	村上	FP	伊藤幹	4
4	南條英	FP	藤田	0
3	有松	FP	細井	1
0	松崎	FP	渡辺	1
2	岡部	FP	藤原	1
2	南條茂	FP	小原	0
2	鈴木英	FP	伊藤佳	1
0	永沼	FP	鈴木	0
0	大竹	FP	高橋	0
0	小林	FP	進藤	0
16	（2）	PT	（2）	8

▽女子・一回戦
涌谷（宮城）13（7－2, 6－3）5 野辺地（青森）
大曲農（秋田）15（9－1, 6－2）3 米沢女（山形）

▽準決勝
長沼（福島）4（2－1, 1－2, 0－0, 1－0）3 涌谷
大曲農 7（3－3, 4－3）6 盛岡二（岩手）

▽決勝
大曲農 12（5－1, 7－4）5 長沼
（大曲農は初出場）

得	【大曲】		【長沼】	得
0	鈴木真	GK	小坂	0
0	佐藤典	GK		
0	佐々木	FP	小林恵	1
0	品川	FP	増子	0
2	高橋勝	FP	加藤	0
1	伊藤絹	FP	小林章	1
3	高橋貴	FP	大須賀順	0
2	進藤	FP	大須賀真	0
0	佐藤佳	FP	皆川	0
0	伊藤ル	FP	森	3
2	照井	FP		
2	武藤	FP		
12	（1）	PT	（3）	5

（審・池田、石田）

北信越地区予選

▽男子・一回戦
氷見（富山）20（6－6, 14－6）12 小松工（石川）

▽準決勝
氷見 25（10－9, 15－3）12 北陸（福井）
坂城（長野）21（12－4, 9－10）14 巻（新潟）

▽決勝
氷見 29（13－5, 16－4）9 坂城
（氷見は年続三回目の選抜大会出場）

得	【氷見】		【坂城】	得
0	田中	GK	小泉	0
0	南道	GK	穂坂	0
4	瀬戸茂	FP	宮下	2
7	矢田	FP	竹内	3
3	小坪	FP	田島	0
5	金原	FP	平林	0
7	中原	FP	峯村	0
0	瀬戸政	FP	北村	2
0	森	FP	竹中	0
2	山本	FP	和田正	0
1	桜打	FP	和田勉	2
0	西山	FP	清水	0
29	（1）	PT	（0）	9

（審・五島、東川）

▽女子・一回戦
小松市女（石川）22（9－1, 13－0）1 新潟江南（新潟）

▽準決勝
小松市女 18（11－1, 7－6）7 佐久（長野）
有磯（富山）14（8－2, 6－1）3 福井商（福井）

▽決勝
小松市女 7（3－3, 4－2）5 有磯
（小松市女は三年連続三回目の出場）

得	【小松】		【有磯】	得
0	吉田	GK	谷口	0
0	中山	GK	水谷	0
1	中田	FP	田中	2
1	沢田	FP	柿埜	0
0	高田	FP	星場	1
1	村田	FP	丸山	0
1	藤田	FP	宮本	0
2	太田	FP	林	0
0	竹	FP	安井	0
1	高木	FP	山本	0
0	川端	FP	磯部	2
0	浅川	FP	森田	0
7	（1）	PT	（0）	5

（審・庄田、越田）

関東地区予選

▽男子北関東予選（1月20日）

▽一回戦
足利工（栃木）12（6－1, 6－9）10 前橋商（群馬）
川口工（埼玉）25（12－4, 13－5）9 土浦一（茨城）

▽決勝
川口工 20（11－10, 9－5）15 足利工

▽同南関東予選（1月27日）

▽一回戦
中大附（東京）18（7－4, 11－2）6 法政二（神奈川）
市川（千葉）13（8－3, 5－7）10 日川（山梨）

▽決勝
中大附 30（15－5, 15－7）12 市川

▽関東代表決定戦（2月2日）

中大附 16（11—9、5—6）15 川口工

（中大附は二年連続二回目の選抜大会出場）

得	【中附】		【川工】	得
0	山口	GK	羽深	0
0	山片	GK	早川	0
6	長坂	FP	金丸	6
4	大木	FP	田村	0
2	小山	FP	藤代	0
0	下野	FP	長谷部	1
0	田中	FP	畑山	2
0	永井	FP	渡辺	1
0	佐藤弘	FP	綿引	5
0	堀	FP	藤井	0
0	佐藤光	FP	井坂	0
4	坂井	FP	池田	0
16	（2）	PT	（0）	15

（審・仲尾、北井）

▽女子・北関東予選

▽一回戦

栃木女（栃木）14（8—3、6—2）5 群馬女子短大附

川口北（埼玉）19（8—3、11—1）4 麻生（茨城）

▽決勝

川口北 9（6—3、3—2）5 栃木女

▼同・南関東予選

▽一回戦

和洋女（千葉）10（5—2、5—3）5 拓大（東京）

明倫（神奈川）13（5—4、8—2）6 日川（山梨）

▽決勝

和洋女 10（5—3、5—4）7 明倫

▽関東代表決定戦

和洋女 13（6—5、7—7）12 川口北

（和洋女は初出場）

得	【和洋】		【川北】	得
0	浜野	GK	宮島	0
0	重田	GK	岩崎	0
6	鈴木	FP	海老沢	0
1	山崎	FP	市川	0
1	小川	FP	高橋	4
0	奥原	FP	青木	1
4	小原	FP	田村	4
0	堀切	FP	稲垣	1
0	小林	FP	倉本	0
1	清水	FP	新島	0
0	片岡	FP	樋浦	0
13	（3）	PT	（2）	13

（審・宮沢、中野）

近畿地区予選

▼男子・一回戦

此花学院（大阪）21（11—6、10—4）10 向陽（京都）

明石商（兵庫）11（5—4、6—6）10 米原（滋賀）

▽準決勝

此花学院 14（5—6、9—3）9 畝傍（奈良）

御坊商工（和歌山）14（9—4、5—2）6 明石商

▽決勝

此花学院 9（5—2、4—4）6 御坊商工

（此花学院は二年ぶり二度目の出場）

得	【此花】		【御坊】	得
0	佐藤	GK	前	0
0	津村	GK	高垣	0
5	南	FP	井原	3
1	早野	FP	山本	1
0	寺村	FP	大橋	0
0	谷川	FP	松村	0
2	菅沼	FP	平田	1
1	山本	FP	上野	1
0	盛	FP	黒松	0
0	酒井	FP	木下	0
0	横田	FP	根木	0
0	柏木	FP	小畑	0
9	（1）	PT	（1）	6

（審・堀田、辻）

▼女子・一回戦

夙川学院（兵庫）12（7—2、5—1）3 彦根南（滋賀）

西京商（京都）8（5—1、3—2）3 粉河（和歌山）

▽準決勝

夙川学院 17（7—2、10—0）2 添上（奈良）

西京商 6（3—4、3—1）5 四天王寺（大阪）

▽決勝

夙川学院 16（8—5、8—0）5 西京商

（夙川学院は三年連続三回目の出場）

得	【夙川】		【西京】	得
0	藤本	GK	阪本	0
0	斉藤	GK	東	0
4	若水	FP	太田	1
6	李	FP	勝山	3
0	牧野	FP	中川	0
6	秋成	FP	天早	0
0	北山	FP	藤居	0
0	市岡	FP	宮下	0
0	林	FP	林	0
0	廣田	FP	河元	0
0	茂山	FP	内田	1
0	塩谷	FP		
16	（0）	PT	（0）	5

（審・丹田、滝）

中国地区予選

▼男子・一回戦

飯南（島根）26（12—11、14—5）16 境港工（鳥取）

修道（広島）16（11—7、5—5）12 総社（岡山）

▽決勝

修道 24（11—5、13—6）11 飯南

（修道は二年連続二回目の出場）

▼女子・一回戦

山陽女（広島）19（11—1、8—1）2 米子南（鳥取）

総社（岡山）4（0—0、1—0、2—3、1—0）3 松江一（島根）

▽決勝

山陽女 19（10—2、9—2）4 総社

（山陽女は初出場）

開催地（山口県）予選

▼男子・準決勝

下松工 19（10—4、9—3）7 下関中央工

岩国工 12（5—8、7—2）10 下松

▽決勝

岩国工 17（3—1、1—0、7—8、6—7）16 下松工

（岩国工は二年ぶり2回目の出場）

▼女子・準決勝

徳山 8（3—2、5—0）2 徳佐

岩国商 8（0—0、1—0、4—4、3—3）7 徳山商

▽決勝

徳山 7（3—3、4—3）6 岩国商

（徳山は三年連続三回目の出場）

九州地区予選

▼男子・一回戦

大分電波（大分）19（10—9、9—8）17 浦添（沖縄）

九州学院（熊本）19（12—4、7—2）6 隼人工（鹿児島）

久工大附（福岡）25（13—3、12—4）7 瓊浦（長崎）

小林工（宮崎）21（13—6、8—5）11 神埼（佐賀）

▽準決勝

大分電波 21（10—5、11—7）12 九州学院

久工大附 20（13—5、7—3）8 小林工

▽決勝

大分電波 24（13—10、11—4）14 久工大附

（大分電波は初出場）

▼女子・一回戦

熊本市立（熊本）8（6—2、2—1）3 佐世保商（長崎）

国分実（鹿児島）14（6—6、8—0）6 小林商（宮崎）

筑紫女（福岡）14（8—6、6—2）8 前原（沖縄）

大分東（大分）17（9—7、8—4）11 佐賀女（佐賀）

▽準決勝

熊本市立 5（3—2、2—2）4 国分実

筑紫女 15（3—0、1—0、5—5、6—6）11 大分東

▽決勝

熊本市立 14（8—5、6—3）8 筑紫女

（熊本市立は連続二度目の出場）

☆なお、東海地区は男子、県岐阜商（岐阜）、女子・市邨学園（愛知）四国地区は男子・新居浜工、女子・新居浜商（いずれも愛媛）が代表に決定した。

第11回全日本実業団ハンドボール男子トーナメント大会

東京重機2年ぶり2度目の優勝

第11回全日本実業団男子トーナメント大会は，2月19日(土)～12日（火）まで愛媛県新居浜市民体育館に32チームが集まり熱戦を繰り広げた。昨年第1回戦で敗退した東京重機が本領を発揮し，一昨年に続き2度目の優勝を果した。

初の決勝進出となった新日鉄大分は惜しいところで優勝をのがしたが，その健闘ぶりは見ごたえがあった

東京重機強し

▽1回戦

丸善石油下津（和歌山）25（15—5 10—6）11 日産化学（千葉）
日本発条（神奈川）22（12—4 10—5）9 美津濃（大阪）
トヨタ車体（愛知）22（13—5 9—6）11 興亜石油（山口）
住友化学愛媛（愛媛）32（19—9 13—5）14 川崎重工（兵庫）
金沢市役所（石川） 棄権 自衛隊鹿島（鹿児島）
東京重機（東京）34（18—6 16—4）10 日本鋼管福山（広島）
新日鉄名古屋（愛知）25（14—7 11—7）14 三井石化千葉（千葉）
神戸製鋼（兵庫） 棄権 大分鉄道（大分）
自衛隊下総（千葉）33（18—11 15—3）14 川崎製鉄下総（千葉）
日本鋼管京浜（神奈川）18（11—7 7—5）12 住友銀行（大阪）
武田薬品光（山口）28（14—6 14—9）15 丸善石油千葉（千葉）
新日鉄大分（大分）31（14—4 17—3）7 カネカ（兵庫）
三井石油化学（山口）14（9—6 5—5）11 セントラル自動車（神奈川）
大阪ガス（大阪）24（14—5 10—4）9 日本碍子（愛知）
丸善石油松山（愛知）15（6—9 9—3）12 日本原研（茨城）
日鉄建材（大阪）18（9—5 9—6）11 自衛隊岩国（山口）

○…丸善石油×下津日産石油化学は、前半ミスが多いながらも一進一退の試合を展開した。後半にはいり丸善石油の速攻が決まり出し、日産—上田の健闘もむなしく丸善石油が快勝した。

日本発条×美津濃は、総合力に優る日本発条がロングシュート・速攻で着実に得点した。美津濃も必死に健闘したが、ゲームの流れを変えるまでには到らなかった。

昨年11回大会で第一戦に敗れた東京重機は、前半から良く走り、速攻主体で着実に得点していった日本鋼管は良く健闘したが、攻撃が単調で重機のディフェンスを破れなかった。

トヨタ車体×興亜石油に、両チーム共速攻を繰り返し、スピーディな試合展開となった。GKの好守などにより前半はトヨタが9—6とした。後半はトヨタが6点連取して試合を決定ずけた。

新日鉄大分×カネカは、前後半を通じて新日鉄の全員がよく走り速攻・ポスト・スカイプレーと多彩な攻撃で着々と加点した。新日鉄の一方的な試合だった。

日鉄建材×自衛隊岩国は、自衛隊岩国が前半11分までリードしたが、その後は日鉄建材のペースで試合が進められ二回戦進出できなかった。

トヨタ車体巧い攻め示す

大阪ガス健闘目立つ

▽2回戦

丸善石油下津 22（10—8 12—10）18 日本発条
トヨタ車体 16（9—8 7—6）14 住友化学
東京重機 19（10—4 9—7）11 金沢市役所
新日鉄名古屋 20（13—7 7—5）12 神戸製鋼
自衛隊下総 26（12—7 14—7）14 日本鋼管京浜
新日鉄大分 23（8—6 15—3）9 武田薬品光
大阪ガス 26（12—11 10—11 2—1 2—1）24 日本石油化学
日鉄建材 17（12—9 5—5）14 丸善石油

○…2回戦は実力追仲の好試合が続いた。丸善下津×日本発条は前半たちあがり丸善の速攻により連続2得点し、11分過ぎには5—1と丸善がリードした。発条もセットから7番のロングシュート等でペースを取りもどし、12—10で前半を終った。後半に入り3分・18分・24分に1点差となったが、速攻・セット力に勝る丸善が1度も発条にリードを許さず勝利を収めた。

トヨタ車体×住友化学は、少々荒さが目立ったが、1点を争う好ゲームで前半を終る。後半に入りトヨタが3連続得点したが、これが結局シーソーゲームに終止符を打った。しかしそのときの調子でどちらが勝ってもおかしくないゲームと思った。

自衛隊下総×日本鋼管京浜は、自衛隊勝田が前半たちあがりよく平野を中心に速攻主体の変心ある攻撃を行なった。一方日本鋼管もポストプレーで対抗したが7—14で前半が終了した。後半は自衛隊のペースで速攻・セットともに優れた攻撃をくり返し、日鋼に一度もリードを許さなかった。

大阪ガス×三井石油化学は、前半一進一退の試合展開となったが15分過ぎ三井石油のサイド攻撃で16—13とし、やや三井石油有利の展開となった。その後終了7分前に大阪ガスは1点差に追いつき、残り5分速攻で22—20と逆点したしかし三井も頑張り、22—22の同点で延長戦となった。

延長に入ると大阪ガスが走り勝ち、26—24で辛勝した。

日鉄建材辛くも逃切り

▽準々決勝

トヨタ車体 27（15—8 12—11）19 丸善石油下津

前半20分までトヨタ車体7—4でリードし、ペースを掴み優勢に展開するかに見えた。しかし丸善が追い上げ、シーソーゲームとなり、後半に興味を残した。

後半10分になるとトヨタが17—

12と再度リードし、サイド・速攻で加点し逃げきった。丸善石油は後半単調になり相手につけ入るスキを与えてしまった。（中本）

東京重機 27（15－9、12－11）20 新日鉄名古屋

非常によくにたチームの対戦となった。前半東京重機は速攻・ポストプレーと変化ある攻撃をし、確実に得点した。一方新日鉄は仲々ペースをつかめず、前半を終了した。後半に入ると一進一退のシーソーゲームとなったが、新日鉄に退場者が続出し、今一つチャンスをつかむことが出来ず、前半の得点が最後までひびいた。（高橋）

新日鉄大分 17（10－8、7－7）15 自衛隊下総

双方とも走力のある好チームだった。スピーディでしかもクリーンな試合が展開された。前半10－8と新日鉄がリードした。後半15分新日鉄が一人退場中に自衛隊が同点に追いついた。しかし常に先行する新日鉄が、南兄弟などの活躍で逃げ切った。

日鉄建材 20（13－13、7－6）19 大阪ガス

最後まで息のつまる好試合であった。前半13－13の同点で緊迫した試合となったが、後半15分すぎになると日鉄建材が19－14とリードし、勝負あったかと思われた。

大阪ガスはその後反撃終了近く一点差と追いつきゲームを盛りあげたが、日鉄建材の好守にはばまれ今一歩及ばなかった。

新日鉄大分決勝へ
東京重機はトヨタを制す

▽準決勝

東京重機 25（11－10、14－7）17 トヨタ車体

【重機】		得
GK	衣笠	0
FP	青木	0
	卯野	7
	千葉	3
	佐藤	3
	雨宮	2
	奥山	7
	荒井	3

【トヨ】		得
GK	近藤	0
	遠山	0
FP	大塚	0
	牧	0
	白石	0
	森岡	0
	宮松	4
	山田	1
	高橋	4
	横尾	2
	萩原	4
	羽立	2

（審・東 中本）

25（3）PT（4）17

○…トヨタ車体はすべり出し2点先取したが、退場者を前半で計3名出し、また速攻ミス等がありペースをつかめなかった。一方東京重機は前半10分頃から自己のペースで着実に得点し、一点リードで前半を終えた。

後半もトヨタが2点先取するもなかなか自己のペースがつかめず反対に重機にPT等でリードを許し、15分すぎからは重機ののびのびとしたペースにはまり、昨日までのプレーが見られず東京重機の2回目の決勝進出を許した。（小松）

新日鉄大分 19（12－6、7－12）18 日鉄建材

新日鉄は立上り南喜文の活躍で15分には6－2とした。その後も南博文などの得点などにより前半を12－6とした。

後半に入ると新日鉄が2点連取したものの、日鉄建材の反撃が始まった。日鉄建材は中盤の15分間に1点しか得点を与えず、その間着々と加点していった。残り5分日鉄建材は15－17と2点差に追いついたが、すぐに2点を返され、残り2分で3点をあげたが及ばず1点差で敗れた。

【日鉄】		得
GK	長	0
FP	素原	1
	若本	4
	玉嶋	3
	清原	2
	池辺	6
	外山	2
	岩嶋	0

【新日】		得
GK	藤沢	0
	馬見	0
FP	岡村	3
	大杉	0
	吉田	1
	南(博)	6
	南(喜)	8
	得丸	1
	永松	0

（審・　）

19（2）PT（2）18

▽3位決定戦

トヨタ車体 28（13－7、15－8）15 日鉄建材

【日鉄】		得
GK	長	0
FP	素原	1
	若木	7
	玉嶋	4
	清原	1
	池辺	2
	外山	0
	岩嶋	0

【トヨ】		得
GK	近藤	0
	遠山	0
FP	大塚	0
	牧	2
	白石	1
	森岡	1
	宮松	1
	山田	2
	高橋	6
	横尾	2
	萩原	12
	羽立	1

（審・竹村 柳原）

28（5）PT（3）15

○…前半トヨタ車体の固いディフェンスに日鉄はセットでミスを犯した。やや速攻力に勝るトヨタがボールを継ぎ、得点を重ね13－7でリードして終る。

後半トヨタの走りはおとろえず日鉄に走り勝ち、9番高橋の好リード、14番萩原のシュート力で着々と得点し、後半15－8で計28－15で終った。両チーム共反則の少ない好ゲームであった。

敗れた日鉄建材も最後までゲームを捨てず、よく健闘した。（真木）

東京重機昨年の雪辱を果す

▽決勝

東京重機 20（7－8、13－8）16 新日鉄大分

【新日】		得
GK	藤沢	0
	馬見塚	0
FP	岡村	2
	大杉	4
	吉田	2
	南(博)	0
	南(喜)	5
	得丸	3
	永松	0

【重機】		得
GK	衣笠	0
FP	青木	0
	卯野	5
	千葉	5
	佐藤	3
	雨宮	3
	奥山	3
	荒井	1

（審・松原 野中）

20（2）PT（3）16

○…立ち上り東京重機がリードしたが、新日鉄大分が7番南博文のリードと2番岡村のミドルシュートで逆転した。その後お互いに決定力に欠け、やや大分がポストプレー・GKの好守でリードし、8－7で前半を終えた。

後半重機雨宮と卯野のシュートが決り、5分過ぎ逆転に成功したその後大分のミスが出る間、着々と得点差を開き、ディフェンスを固めて大分の得点を許さなかった。

大分も後半の終りに得点し追撃したが、安定力にまさる東京重機のリズムをくるわせるまでには到らなかった。（真木）

実業団トーナメント大会より

□後　記

一昨年の覇者東京重機は、昨年一回戦敗退という苦い経験をみごとに生かして、2年ぶり2度目の優勝を果した。今大会新日鉄大分が苦しみながらも決勝進出を果し盛り上りのあるものとなった。



代議員の変更

栃木県協会長・滝沢武氏より代議員変更の届出があった。

桑名照雄氏（日立栃木勤務）に代り高橋隆夫氏（足利工業高校勤務）が新代議員となった。

◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇

関東学生ヨーロッパへ遠征にあたって

総監督　藤原　侑（関東学連理事）

当初は、

一、ハンドボール競技を熟知し能力を高める。

二、あらゆる分野からの知識を高める。

この二点から出発した欧州遠征も今回で三回を迎えることとなった第一回目の五十三年には、目的をもって遠征準備はしたものの、多少の不安はぬぐい切れないものが胸中にあったのは事実である。だがしかし結果としては学生諸君のレポート或は対話からすれば、最大の喜こび最高の経験、ハンドボールをやってきて良かったことの感銘を知った時、関東学連のスタッフとしてはこの上ない安心と、喜こびを覚えたものである。

何も海外に出ることが人間性を高めハンドボールを知ることでないことは、百も承知である。だが少くとも自費で研修の場を関東学生一丸となって世界に向けていることに対してはその成果が二年先或は三年先かも知れない。又未知数であっても無形の財産として残るものと信じている。

今回の遠征で変ることとは、過去二回の遠征試合は、西ドイツを転戦して、男子6ゲーム、女子五ゲームを消化したものが、新たにフランスでの試合を男・女組入れたところにある。対戦相手は、ジュニアナショナルであり大いに得るところがあると思っている。

このような体験を通じて将来日本のハンドボールの発展と向上に役立てることの出来る人材を一人でも多く生み出してゆかねばならない使命もあると感じる自分である。研修に行って帰るだけのものにだけはしたくなく、今後のハンドボール界を担う若い人達の国際情勢の勉強も合わせ、将来本人達が、どのような実社会で活躍するにしても大きく育ってほしいと念願するものである。

遠征の日程は二月二十六日〜三月十二日の十六日間ではあるが、実のある研修、学習経験となるよう万端を配してゆきたいと考えている次第です。

又、関東学連の会長、菅浦一氏を頂点に、福地賢介理事長を中心とした組織は非常に良くまとまっており、両氏はいつも、親心をもって、学生達の日頃の動向や、国内の試合を見守り或は激を飛ばしておられる。福地氏は、第一回から今回まで自ら団長を勤められその意欲のほどに敬服させられる次第である。

尚関東学連欧州遠征に先立ち、日本ハンドボール協会、全日本学生連盟その他の方々より、深いご理解と御指導、御協力載きましたことを、紙面をお借り致しまして厚く御礼申し上げます。

尚遠征報告は、ハンドボール機関誌紙面を通じて行なう予定でおります。

▽日程

2月26日22時30分（成田発）
　JL433便

2月27日（フランクフルト着）

▽試合―男子6ゲーム・女子5ゲーム

3月7日（チューリッヒ着）

3月8日（パリ着）

3月9日

▽試合―男女各1ゲーム

3月10日
　パリ市内観光

3月11日13時パリ発

3月12日15時5分成田着
　通関後箱崎町にて解団式の予定

― 関東学生選抜 ―

団長　福地　賢介
総監督　藤原　侑
技術　清水　宣雄

男子

監督　綿貫　敏雄
コーチ　岡本　研二
主務　岡田　茂
主務　安田　博之

・ＧＫ

井藤　英忠（日体大）
讓原　昭（早大）

・ＦＰ

村崎　広（早大）
三尾　良之（順天大）
東根　明人（早大）
佐藤　昌宏（国士大）
三木木俊雄（国士大）
松原　宣正（中大）
植村　彰（早大）
藤川　朗（東海大）
富永　保（茨城大）
酒井　信幸（日体大）
平野　隆一（日体大）
平井　裕康（明大）
藤井　泉（中大）
尾上　良生（中大）
塚田　正明（中大）
佐々木　功（日体大）
永井　雅己（日大）
関口　直人（早大）

女子

監督　高野　亮
コーチ　坂村　紀子
主務　大串まゆみ
主務　岡崎　智美

・ＧＫ

高松ひとみ（東女体大）
藤井美智子（日体大）
藤本　陽子（東女体大）
小野森幾子（東女体大）
鈴木　早苗（日体大）
富永　文江（茨城大）
鈴木　紀子（日体大）
石島　訓子（日体大）
浜村　尚美（東女体大）
加藤　典代（日体大）
石井　幸（日体大）
原田　文子（日体大）
大島　里美（日女体大）
鈴木智恵子（東女体大）
島袋　弘美（日女体大）

『ハンドボール』55年3月号（第183号）目次

【表紙写真】第11回全日本実業団ハンドボール男子トーナメント大会より。（昭和55年2月徳山）

【青木氏提供】

男子回顧と今後の課題

ジュニアの性格を明確に

世界ジュニア男子監督　木野　実

初参加のジュニア世界選手権であったが、自分が想像していた以上にレベルの高いものであった。

個々のテクニック・技術力もさることながら、全くシニアナショナルと変らない程素晴しい闘争心・気力・ムードが表面にでていてハンドボールの深さと激しさを十分知らされた。

日本代表としての自覚を

我々のチームは1～2名の選手以外は海外初遠征組であり、又将来日本の柱となり得る選手を選考（特に身長一八〇cm以上を考慮）し、若干学習と経験を積ますことに重きを置いて考えていたが、認識が甘かった。

それなりの準備があってこそ、こういった大会へ出場する意義があることを痛切に感じた。

しかしながら初めての国際ゲームを通して、コート上で日本国歌を聞きながら日本人としての誇りを何人の人が感じてくれたかは分らないが、少くともゲームを行いまた他のゲームを直接観戦したことによってハンドボール感と視野というか世界をみるめが広くなりつつあるのは確かなようである。それらを若い時期に掴んだことは本当に貴重な経験・体験となったと思う。

私自身監督という立場で参加させていただいたが、当初の目標通りにはいかず大きく期待を裏切ってしまった。

特に選手が試合に対しての十分な心構え、気構えが安定したものでなく、またゲームで力を発揮できうるようにもっていけたかと考えると反省するばかりである。

チーム構成を考えた選考

チーム編成の中で自分の得意とするポジションに数人が集っていたり、またポジションによっては専門的なプレーヤーがいなくて、あらたに新しく与えてやらせた為選手にとっては相当な悩みと戸惑いがあったと思われる。その点にちょっとしたミスが傷口を大きくさせてしまったと思い反省している。

今後は各ポジションに最低2名の専門的プレーヤーをつくりあげて、2人が競争していく姿が必要であると思う。

今回のチーム編成は大学4年生が1名、3年生無し、他1・2年生にメンバーが集中したため、責任分担ということで若干問題があり、今考えると3年生に3名ぐらいの人がいるのが望ましく、今後注意すべきである。

また、チームの中に高校生が2名いたが、全ての選手が学業・業務から離れることになり、留年問題で頭を痛めていた。

今後本人の努力もさることながら、年間のスケジュールを早く立て、被害を少なくするようにスピーディな対処の仕方を考慮してやる必要がある。

ジュニアに方向性を

選手の発掘・選考についても大変むずかしい問題がある。今後のジュニアを考えていく場合、大会だけに重きをおくならば、現在力のある選手（たとえ身長が低くても）を選んでいくべきだし、またジュニアを次のナショナルの養成として考えるなら現時点で劣る選手でも期待度を買って選考すべきである。

いずれにしてもジュニアの年令を越えた場合には、ナショナル選手として自動的にそのまま残るのかを方向づけていかなければならない。

魅力あるチームを

大会参加への準備期間は、相当日数必要で、またメンバーを固めてから各連盟の大会と重なったりしてチームとしての合宿が少ない

そのためかえって本人達にもチームにとっても自信を失なわせ、将来にとって決して良い結果をもたらさないことは目にみえている

更に選考で頭の痛いのが、彼らが果して将来ハンドボールを続けてくれるかという問題である。

良い環境・ムード作りの中から選手を育成し、選手に誇りと自覚をもたしていけるかであろう。

本人の口から本当に「ナショナル選手になってよかった」「ナショナル選手は素晴らしい」といわれる様な魅力あるものにしていかなければならない。

選手発掘方法についても、埋もれている選手もかなりいると思われるので、ブロックごとに委員を置いて情報がそこに入り、そしてチェックしていく方法も良いと思う。今後の有望選手を発掘していくために、その方法を充分に検討する必要がある。

語学力に強い選手を

言葉の障害についても、いつも問題がある。言葉が通じれば情報も入り、他の国の選手とも話すことができるので、気おくれしなくてリラックスした状態でゲームに臨めると思う。

私自身各国の情報収集を他国の監督、コーチまた選手係等を通しておこなったが、十分とはいえなかった。しかも会場が2カ国に分れていたことも一層きびしかった

ただ幸いだったことは選手係（デンマーク1部レフリー）を通してデンマーク協会にずいぶん親切にして頂き、我々の要求、願いに対して心よく引受けてくれたので大いに助けられた。

レフェリーの判定基準がわからず、選手は困っていたが、2名の選手係が具体的に一つ一つ例を示して指導してくれ、大いに日本チームに貢献してくれた。

こういった面でも今後積極的に語学をつけなければ真の国際人にはなれない。

コンディショニングにくふうを

技術的なことに触れると、大会が11日間で8ゲームを消化する強行スケジュールで、しかもバスで試合場に移動するため、戸惑いと疲労でコンディションを乱した者

もいた。

コンディションづくりは、日本国内と違い、場所が廊下・部屋だったりして満足にボールもつかめず、好・不調の波がはげしかった。

自らの体は自分でほぐすと同時に気力を高めていく方法を各自が会得していかねばならない。後半には積極的に体を動かすことができるようになった。これらも慣れと訓練だろう。

11日間で8ゲームと苦しかったわりには怪我人がほとんどなかったことは幸いだったが、裏をかえせば防御・攻撃において自分の体を百%使い切っていなかったのかもしれない。

攻撃では縦への突込み不足、ペナルティを誘うプレーが少なかったことがあげられる。

防御ではフェイントに対して体ごとで受けとめていくものが少なかった。

今後、各国選手の激しいエネルギッシュなプレーを生かしてほしいものである。

この様に食事、住居、試合コートがかわることにより、ふだんの力が発揮できないということではなく、どんな悪条件でも自らの力を百%だしきれる訓練を今後多くとり入れ、たくましい選手を育てていかなければならない。

今後の課題として重要なことである。

アジアのリーダーとして

今や世界のハンドボール地図は欧州とりわけ東欧諸国を中心とした時代から脱皮し、自由諸国の健闘またアフリカ・アジア等のすみずみまでハンドボールがいきわたりつつある現実を、ハンドボールの発展とばかり喜んではいられない。

日本の中・高校・大学生の方向を見直し、中国の抬頭に対しても日本が中国に先んじてアジアのリーダーシップを全ての面でとれ、舵取りができてこそ、世界のハンドボールと対等に、いやそれ以上に戦えるのだと思う。

今回の遠征で感じたことは、今後ジュニア層を含め、一層の強化をしなければ、世界からとりのこされる危機さえ覚えた。

反省と今後の課題

▽攻撃

一、日本の大型プレーヤーは、まだ脚力も体力も弱く走れない。そのため動きにスピードがなく、動いてプレーすることも少い。

二、パスの球離れが悪く、またボールキープする人もパスを受ける人の位置が悪いため、すぐドリブルする悪いクセがある。

三、一人一人のボールキープ力・フェイント力がないため突進力のあるプレーが少い。

四、コンビプレーの欠如。簡単なブロックプレーの練習が必要。

五、最終的には西山の個人技にたよらざるをえなかった。

▽防御

一、個人の防御能力に欠ける。とくにフットワークと読み。

二、シュートに対してほとんどボールカットができていない。

三、まず構えの準備が必要で、更に気構え・闘争心が表面にでる様にする必要がある。

四、攻撃後のもどりの悪さ、一歩の出足の悪さが目立つ。

五、個人技で攻めてくるチームに対して弱い。

六、防御の型が一線防御しかなく苦しかった。

▽GK

一、ボールスピードに不慣れなため、またシュートタイミングの違いからゴールインされていたが、ノーマークシュート・サイドシュートに対しては捕球動作、ファイトあるキーピングができていた。

二、シュートして大きく位置をズラされた時のフットワークと位置のとり方に今後の研究が残されている。

三、ボール出しの欠点と遠投力の弱さがとくに目立った。

▽体力

一、他国選手と比べて体つきが貧弱であり、体力作りが急務であるとくに上半身・腕・胸部が目立っていた。

二、スピードをつける必要があるバランスのとれた西山（筑波大）にしても世界では並のパワーであることを考えると、更にパワートレーニングが必要。

三、防御体力を根気よくつけることである。

四、また大型プレーヤー共通の欠点である柔軟性と調整力とくに空中バランスが悪い。

▽コンディショニング

一、ゲーム前のアップは狭い場所でおこなうことが多く、不慣れなこともあったが、各自で工夫し身心共に高めていかなければならない。試合場への到着が遅く、ウォーミングアップの時間に余裕がない。また昼寝や中間食の取り方もまずく、食べすぎで動きが悪い者もいた。今後、トレーニングしながら調整していくという教育をしていく必要がある。

二、ゲーム後レセプションがあり帰ってくるのが午前0時をまわることが度々、その後ユニフォームの洗濯などに多くの時間を使い、睡眠不足と疲労が蓄積していたので、これらの訓練も必要である。

▽審判

一、世界の判定は厳しい。とくに退場、ペナルティがはっきりしていた。

二、記録からも分るように、日本に限らず警告よりも退場の回数が多い。これは一回目で即退場のケースが多いからである。

三、追放のケースを始めて見た。

四、腕の使い方はとくにきびしくラフプレーにつながるであろう警鐘を感じた。

五、ジェスチャーが明確でわかりやすい。

六、サイドシューターに対しての判定はまだ理解に苦しむ。

七、ゲームの流れをよくつかんで笛を吹いている。それは、ロスタイムのとり方が実にタイミングよく、オフィシャルと常に連絡をとりあっている。

八、選手に語りかけることもなくまた笑ろ人もなく、いつも厳格で気持ちがよい。

総括

一、日の丸、ナショナリズムをもたせる。

二、継続的な強化合宿とその財源確保。

三、選手の発掘・育成に努力する

四、ジュニアチームの活動を国内外で継続的におこなう。

五、各所属チームの協力要請

（大会等と重なる場合）

六、選手の金銭的負担を軽減する

七、学業の問題を考慮する。

八、審判団と技術の合同会議を開き、共に考えていく。

九、言葉の障害を克服するため合宿等を利用し、語学研修を行なっていく必要がある。

男子ナショナルチームの今後と対策

東　嘉仲
（男子ナショナルコーチ）

厳しい今後の道

モスクワオリンピックを七月に控え、スポーツ界は一段と熱気をおびていますが、ソ連によるアフガニスタン問題でその開催さえ微妙に揺れ動いていることが気がかりで、誠に残念なことです。

さて男子ハンドボールは他のボール競技に先きがけて、台湾でのアジア予選、更には中国のI・O・C復帰にからむアジア決定戦を乗り切ってミュンヘン、モントリオールにつづきオリンピック三回連続のモスクワオリンピックへの出場権を獲得することが出来ました。

これは日本ハンドボール界の勝利であったし、過去四十余年の総力の結晶であったと信じます。

選手達も一カ月に亘る中国、台湾への遠征試合で疲労を残し、しかも国際公式試合には珍らしいアクシデントで名古屋での第一戦が一日延びたこと等、精神的重圧の大きかったことも事実です。

女子が残念ながら私達の応援もむなしく目の前で敗れ去り、男子バスケット、男子バレーともアジアの壁を破り得ず中国の前に涙をのんでいる現実を見ても、世界の厳しさを覚悟しなければならないでしょう。

振り返ってみればモントリオールを戦った選手が、現在穂積、蒲生と二人しか残っていないことは中堅、若手が海外遠征修行の都度一歩一歩着実に力をつけたということで結果的に良かったと考えられるが、その過程に於いては言葉に尽せない不安の連続であり、モスクワへの切符は云わば選手達の血のにじむ努力と精進であったと信じます。

目標

「ベスト6入り。」

モスクワオリンピックの組合せはすでに発表されている通り、日本は予選B組で（左記）出場。

日本の目標は過去の対戦より考えて比較的戦い易いBゾーン故、全勝を前提に戦うことは勿論ですが、戦い方としてユーゴ（7／20日）、西ドイツ（7／22日）、デンマーク（7／26日）の三国の内より一勝を考え、スペイン（7／24日）、チュニジア（7／28日）には絶対に星を落とさぬように戦うことであります。

竹野監督の云う三段跳び論法でホップ（ミュンヘン）、ステップ（モントリオール）、ジャンプ（モスクワ）で、男子ハンドボールはモスクワの空に高く翻りたく念います。

その対策

体力、精神力、技術、戦術の各面での充実と向上を計ることは勿論ですが、何よりも選手の「意欲」「創造性」を見覚させ、今一度基本に戻り徹してみたいし、大型チームそしてパワーハンドボールに対抗する術は、位置どりとスピード、そして正確さだと考えています。

日本の積みあげてきたハンドボールを忘れることなく、更に磨き込みたく思います。

国際大会を経験する毎に痛感したことは、民族と民族の戦いである以上、人間の資質の戦いであるということです。その資質の戦いに至るまでの体力と技術のレベルは、すでに選手達が体得しています。後は理論ではなく実行、修練あるのみです。

体力面ではトレーニングドクターが強力なバックアップをしてくれていますし、戦術面では各組織が情報収集に力添え下さることでしょう。また新チームが苦しかった昨春の西ドイツ遠征でその基礎作りが早められたことを考えるとまた世界の変化の早い流れを知る為にも海外への武者修行も欠くことの出来ない対策です。

「人事を尽くして天命を待つ。」

以上

モスクワオリンピック組み合せ

○予選A組	
ソ　連	（開催国，世界選手権　2位）
東　独	（世界選手権　4位）
ポーランド	（世界選手権　6位）
ルーマニア	（世界選手権　7位）
スイス	（ヨーロッパ地区代表）
アメリカ大陸代表	
○予選B組	
日本	（アジア地区代表）
西独	（世界選手権　1位）
デンマーク	（世界選手権　3位）
ユーゴ	（　〃　5位）
スペイン	（ヨーロッパ地区代表）
チュニジア	（アフリカ地区代表）

昭和55年度

競技規則の解釈と説明

国際連盟では、競技規則の改正は、四年に一度改正すると決定されています。現在の競技規則はいろいろ不備な点も多くあるけれども一九八一年、オリンピックの翌年に大幅改正が行なわれると言われている。したがって五十五年度は条文の改正は行なわれない。しかしながら昨年、「昭和五十四年度競技規則の解釈と説明」というタイトルでＩＨＦの公式解釈が発表された。その解釈に基づいて、重な点を競技規則書の本文ではなく、「原注」「注」の項がある右側ページに、各条文に従って「五四ＩＨＦ」として挿入したものである。

主な改正点は次の通りである。

▽3－1「54ＩＨＦ」

一、チームには必ず一名以上のゴールキーパーを使わなければならない。（ルール3の1）

原則としてチームは、ゴールキーパーなしで競技することは認められない。例えばチームに一〇名以下のプレイヤーしかいない時でも、少なくとも一名はゴールキーパーとして記録用紙に記名されなければならない。

二、競技への参加資格。（ルール3の3）

(1)…競技開始時に競技場におり、その競技の記録用紙に記名されているプレイヤーであること。

(2)…退場・失格・追放中のプレイヤーでないこと。（交替の意図が明らかでなく、七名以上のプレイヤーが競技に参加した時には、そのプレイヤーが記録用紙に記名されていないものでも、退場時間中に競技に参加したプレイヤーと同じように罰せられる）。

(3)…記録用紙に記名されているプレイヤーであって、現在、競技に出場している七名以外のもの。（正規に交替すれば、出場資格はあるが、非合法な交替で参加した時には、そのプレイヤーは少なくとも失格させられなければならない）。

3～3下の（注）を削除。

三、競技時間がなくなりつつある時の罰則。（ルール4－7）

競技終了（前半終了）のタイムキーパーの笛の直前に起ったすべての反則は、レフェリーの笛がなくともタイムキーパーの笛が反則を示す。

四、二名のプレイヤーの衝突。（ルール6の11）

反則なしで、両チームのプレイヤーが衝突し、ボールがその下にとどまった時は、レフェリースローで開始する。

12～1（注）削除。

五、キーパースローおよびゴールスロー。

ゴールキーパーがキーパースローまたは、ゴールスローをしようとしているとき非合法な方法によって、相手ゴールキーパーを防害したプレイヤーは二分間の退場を与える。

六、ペナルティースローに対するゴールキーパーの位置。（ルール14の7）

ゴールキーパーの片足が4ｍマークの後についている限り、他の片足および腕はマークの前の空間へ動かすことができる。

七、17－11原注の解釈。（ルール17－11）

レフェリーは同一プレイヤーに二回以上の警告を与えるべきではない。しかしながら実際には、レフェリーが二回イエローカードを示すときもあるが、これは退場を意味しているのであり「警告なのに退場させられる」という公式抗議の理由にはならない。

八、スポーツマンシップに反する行為。（ルール17－13）

2分間退場をさせられたプレイヤーが、その判定に対し、スポーツマンらしからぬ言動をした場合そのプレイヤーは、ルール17～20により追放される。

◇競技場にあった場合には追放である。

◇競技場外にあった場合には失格である。

九、ゴールキーパーの退場。（ルール17－19）

ゴールキーパーが退場を受けている間、チームは代りのゴールキーパーを補充して競技をしなければならない。（17～19）

Ⅱ、競技に関する留意事項。

3「フリースローについて」

「54ＩＨＦ」フリースローの実施

原則としてボールがグランド上にあるときは、レフェリーは、フリースロー開始の笛を吹いてはならない。正しい位置にいるが、ボールを保持しない時は、スローを行なうよう命じなければならない命令に従わない場合は、ボールの近くに立っているプレイヤーに警告を与える。くり返されるならば2分間の退場を与える。

11、（54ＩＨＦ）「ゴールインの後」

チームＡは得点を入れられた後できるだけ早くセンターラインからスローオフしたいと望んだ。しかしチームＢの一人が、チームＡのゴールエリア内で事故の為に倒れていた。

○レフェリーの処置

次の表はいろいろなケースを現行規則との関連で表にしたもので規則との関連でレフェリーが行うべき処置を示したものである。

競技に参加する種別	ルール	開始のスロー	他に反則のない場合の罰則	他に反則がある場合の罰則	重大な反則がある場合の罰則
不正交替（初回） 明白な得点のチャンスなし	3—7	フリースロー又はペナルティスロー（G・K）	ペナルティーなし チームに通告	2分間退場	
不正交替（2回，3回） 明白な得点のチャンスなし	3—7	同　上	2分間退場		
不正交替（初回） 明白な得点のチャンスあり	3—7	ペナルティースロー	失　格 (disqualification)		
同　上（2回，3回）	3—7	同　上	2分間退場および失格※		追　放 (Exclusion)
参加資格なし （メンバー以外）	3—3	フリースロー又はペナルティースロー	失　格	2分間退場 および失格	
同　上 （退場中のプレイヤー）※※	3—3	同　上	失　格		
同　上 （同チームのプレイヤー）※※	3—3	同　上	失　格		
交替の意図なし （8人目のプレイヤー）	3—1 3—3 3—6	同　上	失　格		※※※

※　チームが1名削減で2分間は他のプレイヤーを退場させる。
※※　退場時間の残りが終るまで他のもう1人のプレイヤーを退場させる。
※※※　残り場間を少ない削減されたプレイヤーで競技する。

レフェリータイムをとり、すみやかに再開できるように処置をする。もしこの時、レフェリーが笛を吹いてスローオフを許したとしても、チームBは5人しか防御することができないと言う理由で、チームAが得点しても認められない。スローオフを再度行なわせることになる。

尚日本ハンドボール協会公認審判員規定の6、〔上級申請の要件〕中

(ロ)B級の審査を受ける場合……。「最後に」ブロック大会を経験していなければならない。

(イ)A級の審査を受ける場合……。「最後に」全国大会を経験していなければならない。

以上の二点AB級申請の条件として明記された。

55年度より機関誌に技術講座（シリーズ）を企画しています内容等について希望があれば編集委員会までお知らせ下さい。また日本協会その他についても、どしどし御意見・御希望をお寄せ下さい。
（編集委）

宛先
〒　東京都渋谷区神南一—一—一
日本ハンドボール協会
編集委員会　宛

日本協会ニュース

◇新年度予算案の確定

二月二三日、二四日の全国理事会、代議員会に諮る昭和五五年度の事業計画案と予算案が決定しました。モスクワ・オリンピックを頂点とするナショナルチームの強化事業とハンドボールの普及事業を軸に総額四千八百万円の予算を組みました。

普及指導事業としては、ハンドボール実態調査の実施を初め、普及の一つの柱であるクラブチーム育成の諸方策を樹立するために、クラブ選手権大会関係者と日本協会関係常務理事で、クラブ連盟の設立を含めて協議しようということになりました。また上級コーチ講習会は、日体協がスポーツ指導者に対する報酬等に関する基準を定め昭和五五年一月二三日から実施されたことと相俟って、各地域スポーツの指導者を養成する事業としてより充実していきたいところです。問題はこれらの指導者をどう活かすかという正に行政管理庁が指摘した点にあるわけですがハンドボールの場合も、指導者を求めている地域スポーツ団体の実情を探り、そのような地域団体の組織育成の指導をすることも不可欠でしょう。

教育系大学生の研修会も、そのような指導者の卵を養成するものとして、今後も重点的に実施しなければならない事業です。

◇ナショナルチームの強化

当面のターゲットは男子のモスクワ・オリンピックの参加です。モスクワ・オリンピック・ボイコット問題もありますが、当面は日体協の方針に基づいてモスクワをめざすしかありません。

新年度早々男子ナショナルチームを東ドイツに、その帰り途、中国に遠征する予定で交渉及び準備をしております。

帰国してからは、全国の枢要都市で選手選考試合及び壮行試合（6月21日、東京体育館）をして、ハンドボールのオリンピックムードを高める計画です。

来年度の日本リーグは、男女とも後期だけに集中開催して、前期はオリンピックを最優先にしております。

女子の強化策については、アジア予選敗退後、全日本総合選手権主力チーム及び役員の海外遠征などのために、強化委員会における台湾での敗戦の分析、今後の強化方針の再検討がおくれていますが四月には男子と合同して中国遠征五月には単独で東ドイツ遠征を計画、交渉しております。

外国チームの来日希望もありますが、当面六月という条件付でオーストリアの名門クラブチームUHKクレムス（男子）とサウジアラビア（男子、六月二〇日〜七月一二日）の日本における強化合宿を招待中です。

◇国際関係

昭和五五年度は、四月に香港でアジアハンドボール連盟（AHF）七月にモスクワで国際ハンドボール連盟（IHF）の各総会が開かれる予定で、いずれも理事の改選が議題になっております。

昨年の中国のIHF仮加盟によりアジアの関係は大分すっきりしました。短期間のナショナルチーム編成、強化合宿であれだけの実力を出せる中国が概く近い将来世界一流のレベルに到達することも大いにあり得ることで、今後はアジアの中で日本と中国が競い合ってこそ、アジアがヨーロッパのレベルに到達することが可能となることでしょう。

それと合わせて、日中相携えてIHFの中でのアジアの地位の向上を図らなければなりません。

日本協会の常務理事会では、荒川理事長をAHFの理事に推せんし、合わせてIHFへのAHF代表に推せんされるよう意思表示しAHF関係者と交渉中です。

◇財団法人への事業承継

昭和五五年度早々財団法人の設立が許可されれば、現在の日本ハンドボール協会は解散し、その資産と事業を一切新財団に引き継ぐことになります。

団体の名称に「財団法人」が冠せられるだけではなく、一人前の団体として、名実ともに世間に対し恥ずかしくないものにする責任があります。

モスクワ・オリンピックの数少ないチーム競技の一つでもあり、昭和五五年度は財団元年として飛躍的に発展する年にしたいというのが関係者の願いであります。

今までの日本ハンドボール協会の総決算として、改めるべき点は改め、その反省の上に新財団を発足させなければ進歩はありません

各種のハンドボール統括団体の体系化、地域スポーツ団体の育成とその指導者のあっせん、各種大会の位置づけ、とくに団体、日本リーグ、全日本総合との関係の調整、ナショナルチーム選手のあり方と強化方針等々新財団に引き継がなければならない重要課題はたくさんあります。関係各位の一層のご指導とご協力をお願いする次第であります。総務部長大野金一

昭和53・54年度 トレーニングドクター群レポート

新井節男
（トレーニングドクター）

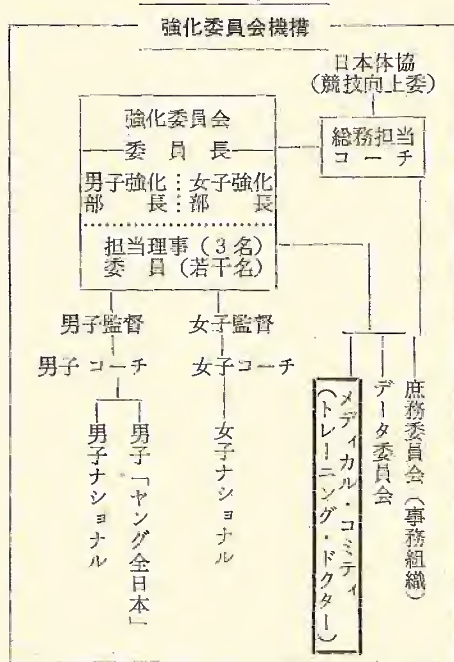
I　ドクター群制度とは

日本体育協会競技力向上委員会が「オリンピック選手特別強化事業」としてオリンピック種目競技団体（27種目団体）と協議をすすめてその事業をスタートさせたのは一九七七年四月であった。その基本的な方針は有給総務担当コーチ・強化担当コーチ・トレーニングドクターを各種目団体に配置しモスクワ・レークプランドの両オリンピックでの入賞期待種目を強化するため、強化チームやコーチの内外での交流、スポーツ科学研究事業を推進させることであったこの27種目団体のなかにハンドボール競技が選ばれた訳で、ここでハンドボール協会は荒川清美理事長のもとに叡智を集め協会機関誌№152にみられる如く強化委員会機構が整備された。

　これを受けて日本ハンドボール協会強化委員会はトレーニングドクターに石井喜八氏（日体大教授）を委嘱、トレーニングドクター群として、阿部徳之助、近森克彦、氷海正行の各氏を決めた。この年度のドクター群レポートは機関誌ならびに日本体育協会スポーツ科学研究報告集に提出されている。

　昭和五十三年度より第二期トレーニング・ドクターとして阿部徳之助氏(自治医大)が石井教授の業績基盤のうえに成果をおさめるべく選ばれ、スタッフとして北川勇喜助教授(日体大)、豊島進太郎教授(愛知県立大学)、新井節男教授（関西学院大学）が選ばれた（機関誌№167より)。

　ここまでが第二期トレーニングドクター群誕生の背景である。



II　ドクター群の役割

　第二期ドクター群は初回の検討会議で以下の相談決定をなした。

(一)　現有ナショナル男女選手ならびにジュニアナショナル選手の基礎的運動能力を確実に把握すること。

(二)　そのために在来のスポーツテスト項目だけではハンドボール競技の特質にマッチした能力が充分に見いだしえないと判断し、新たにハンドボール競技基礎運動能力テストを開発すること。

(三)　このテストの方法を用いれば小学生からナショナルプレーヤーまでに共通して行いうるものであり、かつ特殊な測定用具器材を用いないで行えるものとすること。

(四)　このテストで得られたデータは出来るだけ公表し、ハンドボール愛好者の刺激剤とならしめること。

(五)　テスト結果をふまえて選手個々人に欠点を指摘し、適切と考えられるトレーニング処方を提出すること。

などであった。

　その基本的な考え方に立って第一次のハンドボール競技基礎運動能力テストの素案を早速作成し、施行にうつした。強化対策は一日の余裕も許されない時間的制約をうけているため、言語・文章の使用において充分な検討の時間をもちえない状態であった。その内容は強化委員会レポートとして機関誌3頁より9頁に掲載ずみである。

　本レポートではその後のドクター群活動状況を報告するとともに新しい型のテストの妥当性を検討した結果を簡単に述べることとする。なおナショナルチーム等に対して行った測定結果ならびにその結果をふまえて選手に提出したトレーニング処方については継続的にレポートしたいと考えている。

III　活動状況（内容・年月・場所・対象の順）

◎第一回測定・昭和53年8月（於大同特殊鋼）男子ナショナルチーム

◎トレーニング処方PARTⅠ提出（昭和53年9月）

◎第二回測定・昭和53年9月（自衛隊勝田）全日本実業団

◎第三回測定・昭和53年11月（ジャスコ）女子ナショナルチーム及びヤングナショナルチーム

◎第四回測定・昭和53年12月（東京重機）男子ナショナル・ヤングナショナルチーム。

◎トレーニング処方PARTⅡ提出・昭和53年12月

◎第五回測定・昭和54年3月（呉海上自衛隊）

◎第六回測定（日本ビクター）女子ナショナル・ジュニアナショナルチーム

◎第7回測定・昭和54年6月（石川県）女子ナショナルチーム

◎第八回測定・昭和54年7月（ブラザー工業）女子ヤングナショナルチーム

◎第九回測定・昭和54年9月（福島自衛隊）全日本実業団ジュニアチーム

◎モスクワオリンピックアジア予選（中華民国・高雄・台北）昭和54年11月）新井節男氏を派遣

・レポートは昭和55年1月強化委員会に提出

◎モスクワオリンピックアジア予選昭和54年12月(名古屋・東京)ドクター群研修会

◎第十回測定・昭和54年12月(東京体育館)全日本総合選手権大会時の審判員の疲労測定

◎トレーニング処方PARTⅢ

提出・昭和54年12月　以上

Ⅳ　スタミナテストの妥当性

つぎに新しい型のテストの妥当性検討のデータを報告する。

(一)28メートルの往復ダッシュ3回とバーピーテスト、フットワークの組合せを持久力テストと名付け行ってきたが、有酸素運動となりえないのではないのかという疑問があるため、短期間スタミナテストと改称する。これは図2のごとく12分間走と相関がある。

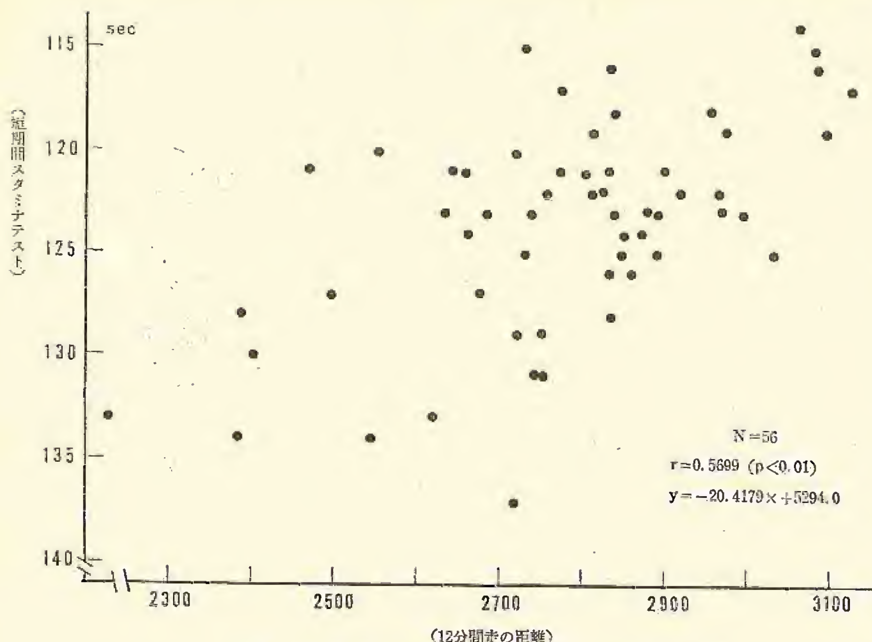


図2　12分間走と持久力(ダッシュ，3往復フットワーク含む)の関係

(二)スピードガンによるボールスピードと力投には、$r=0.594$, $P<0.01$ で有意な相関があるので、このテストが妥当性をもつものと考えてる。

他の種目については現在検討中でありますので、後刻報告することになると思います。

以上

目標額は三カ年で五千万円。財団法人設立許可に必要な三千万円が集まり次第設立許可申請をする予定で始まった財団基金の募金は満二年にして第一の目標額に達したので、三月に設立発起人会を開催して寄付行為（会社の定款にあたるもの）等を定め、四月に文部省に設立許可申請手続をして六月モスクワ・オリンピック前に、正式に財団法人として発足できるよう準備をすすめています。

斎藤会長の新日鉄及び林副会長の大同特殊鋼の各三〇〇万円ずつを軸に、日本リーグ加盟企業が殆ど二〇〇万円ずつ協力いただき、モルテンゴム工業、ヒンメルの大松貿易、など関係業者からも多大のご協力をいただいたおかげで、比較的短期間に第一次目標の三千万円に到達することができました

もちろん地方協会の分担金も順調に集まっていますし、日本協会の役員も率先して基金の一部を拠出しております。

これから、設立許可手続と並行して、募金も五千万円の目標めざして第二ラウンドに入るわけですが、これからはもっと裾野を広げてできるだけ多くの方から協力をいただき、今後の財団の運営に関心をもってもらうようにしたいと思っております。限られた数の理事で動いていますので、全国津々浦々にまでは手がまわりませんが各位のご理解とご協力を切にお願いする次第です。

財団になるとどう変わるか

そもそも財団法人なり社団法人にする目的は、一つの団体が一人前として社会的に活動し責任を負うようにするためです。一つの任意団体が数千万円の予算をもって活動すること自体が正常な姿ではないことで、競技団体の法人化は日本体育協会の指導方針でもあるわけです。

いよいよ財団設立の見通し
―募金は第二の段階に―

ハンドボール愛好者や関係者にとっては、法的にも頼れる柱をもつことになるわけで、連帯感を強めるという精神的な効果は大きいものがあると思います。

財政的には、基金ができてもそれが金のなる木になるわけではありません。ただ法人が責任を負った場合の裏づけになるにすぎないものです。

事務局の強化

財団法人の運営には、社団法人とは異なって、総会（株主総会のような）や代議員会のようなものはありません。財団は人や団体の集まり（社団）ではなく、特定の目的のために寄付された基本財産（基金）を寄付行為（規則）と評議員会の決定した運営方針に基づいて理事が共同して財産の管理、執行をしていくわけです。

「理事」は執行機関の構成員に付けられた法律（民法）上の呼称ですから、「理事長」は文字どおり執行機関の代表者(会長)です。任意団体の場合は「会長」と「理事長」という職を分けていますが、法人になりますと「会長(理事)」と「専務理事」という職制が一般的です。

従来の任意団体でも、代議員会のチェックや公認会計士の監査をうけて適正に運営されてきましたが、財団法人になれば正規に文部大臣の監督に服するわけで、それ相当の人的組織（事務局）も整備しなければなりません。理事等が手弁当で事務局の代行をしているようでは一人前の法人とはいえないからです。しかし、基本財産の運用益では大幅な増員は無理で、やはり理事の奉仕的活動なしには財団の運営はできません。

ハンドボールの普及とナショナルチームの強化

基本財産に対する拠出の多寡に拘らず、財団の運営に参画するのは、やはり従来どおり地方協会と加盟団体になるでしょう。基本的財産の拠出(寄付)者は、ハンドボールの普及と国際的レベルの向上を願って拠出するわけであり、ナショナルチームのレベルアップ（強化）もハンドボールの普及如何にかかっているわけですから、全国の地方協会の協力なしには財団の運営は不可能です。ただ評議員の数は発起人会で寄付行為により定められることになっています。

以上のような次第ですから、現在の日本協会の事業はそのまま財団法人に引継がれることになります。機構的には実質上の変化はありません。要は人です。組織を動かす人です。どんな立派な組織を作っても、これを動かす人を得られなければ動きません。理事は名誉職ではないのです。言うだけならたやすいことです。現代のせわしい世の中で、手弁当で奉仕的に常務をこなしてくれる人を得ることは、財団になってもその困難さは変らないことでしょう。

新生財団に対する各位のご理解とご協力をお願いする次第です。

（総務部長　大野金一）

日本協会加盟団体リポート

全国高体連ハンドボール部

昭和五十四年第度二回全国高体連ハンドボール部、常任委員会・定例委員会が昭和五十五年二月二日、東京都渋谷 岸記念体育会館においてブロック代表、各都道府県委員三十一名が出席し開催され次の様なことが報告、協議されました。

(一) 昭和五十四年度行事並びに決算報告……〈承認〉

(二) 昭和五十五年度行事案並びに予算案について……〈承認〉

▽六月二十八日第一回常任委員会(宇和島市役所・会議室)

▽八月一日~七日 全国高校総会体育大会(宇和島東高外)

▽八月二日第一回定例委員会(宇和島東高・会議室)

▽八月十七日・十九日 日韓高校交歓試合(東京・埼玉)……関東選抜チームが対戦

▽五十六年二月上旬 第二回常任委員会・定例委員会(東京)

▽三月二十五日~二十八日 全国高校選抜大会(名古屋市 愛知県体育館)

(三) 昭和五十四年度全国高校総合体育大会決算報告(兵庫)〈承認〉

▽参加生徒役員数 一八〇一名

▽総額費用 八、四五五、六六〇円

(四) 昭和五十五年度全国高校総体準備報告(愛媛)

▽申込み締切日 六月二十七日(必着)

▽組合せ会議、六月二十八日(宇和島市役所・会議室)

(五) 昭和五十六年度全国高校総体報告。(東京)

▼期日 昭和五十六年八月一日~七日。▼場所 東京都八王子市中央大学多摩校舎を予定。

(六) 全国高校総体組み合せ抽選方法について。……〈承認〉

▽抽選方法の申し合せ事項のうち一部改訂を行なった。(1)シード校を前年度大会第三位までを、前年度選抜大会第三位とする。(県単位) (2)抽選順は県都の多いブロックよりワクずけをし、ワクずけ後に出場校抽選とする。以上二点を改訂した。

(七) 全国高校選抜大会について、

▽昭和五十四年度高校選抜大会

〇昭和五十五年三月二十五日~二十八日、徳山市体育館。徳山高体育館、。二十五日監督主将会議

〇今後参加チーム数の増を考えているかの質問に対し、部長より前向きに検討をしたいとの答弁がありました。

(八) 三十周年記念行事報告。

▽決算報告……〈承認〉

記念式典、記念誌発刊、優勝旗の作成など盛り沢山な諸事項を無事成功裡に終了できました。

(九) 日韓高校交歓試合について。

韓国での戦績と反省及び本年実施予定の確認。次期担当中地区。

(十) その他・審判部よりクリーンハンドを目指し努力するよう要望があった。

(千野)

全日本学生連盟

学連の動き 一九八〇、二、四

(一)昭和55年度の学連関係の主要行事は昨年11月インカレ大会期間中の総会で次のように決定された。

西日本学生選手権、　山口市
東日本学生選手権、 8月 東京都
東西対抗 9月 京都市
インカレ 11月 大阪市

▽東西対抗の意義

各大会の中身、参加チーム数、試合方法(トーナメントかリーグ戦か)等について様々な意見が出され審議された。

(二)日韓大学交流の問題

この交流は特に韓国側が積極的で長年続いてきたが、インカレでの学連総会でも懸案事項として討議されたが結論に至らない。現状では男女の学生チームを迎え、日本チームの費用も含めて5試合やると一開催地150万円かかるのである。もちろん航空運賃は遠征する側が負担しているのであるがそれでも開催地の学連は大変な負担になる。日韓双方がたびたび開催方法、費用分担方法を提案し合うが意見がかみ合わず結論がでない。次回の日韓大学交流は昭和56年度に日本が訪韓する番である。

(三)関東学生男女選抜チームが恒例のヨーロッパ遠征

一行は福地賢介団長(関東学連理事長)以下総員49名の大部隊、男子は綿貫敏雄監督(明星大監督)女子は高野亮監督(東女体大監督)が指揮をとる。出発は一九八〇年2月26日ＬＡＬ433便22時20分成田発、帰国は3月12日ＪＡＬ426便15時5分成田着の予定。かたひじを張らないハンドボールの研修の旅としてとにかく役員にも学生にも好評で彼の地の文化に触れ、ハンドボールフレンドの歓迎を受け、平素はしのぎをけずり合う各大学の選手達の友情増進の楽しい輪が拡がる。企画し実行に移したパイオニアーたちに拍手を送りたい。

(四)湧永薬品チームと地元甲田小学校との交流に思う。

正直なところ普及とはこういうものだと思った。先日ＮＨＫの朝の番組で湧永のオリンピック選手たちが地元の小学校にハンドボールの指導をしている風景が放映され、ほおーと思った。小学生たちはオリンピック選手にあこがれハッスルしてゲームをやっているではないか。普及と肩ひじ張って努力をしても小、中学校段階になかなか受け入れられぬ悲運のハンドボールだが、今春小学校、中学校の体育教師として巣立つハンドボールの学生選手たちの普及への努力とタイアップして日本リーグ勢の何気ない小、中学校への訪問が意外な効を奏するかも知れない。試合試合とスケジュールに追わればなしの行事のあり方に一考を要することを教えられた。もっとひまのある学生チームも近所の小学校にアタックをしてみてはいかがか。

(久田 暁)

●デサントハンドボールウェアは日本ナショナルチーム(男女)/日本リーグ(男女)/大学選抜(男女)で採用されています。

勝ちぬく速攻メカ。

速い奴がでた。その名は「ザ・スタジアム ハンドボールウェア」。「アクションカット」「Jカット」という新機能を搭載。腕の動きをケタ違いに高め、速攻機能を大きく広げた。まさに、ハンドボールのための新兵器。ボールをゴールにたたきこむ、とっておきのメカだ。世界選手権をはじめヒノキ舞台で活躍する、デサントのノウハウがいま、コートで吠える。

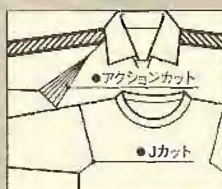


写真:DSS-201 衿付長袖シャツ(肩アクションライン) ¥3,400●スクラムニット●ポリエステル50% 綿50%●S·M·L·O STUDIUMはデサントの登録商標です。

THE STADIUM®

DESCENTE

《本格派》デサント・ハンドボールウェア/ザ・スタジアム



JOC-MS-2-79-1
1980 MOSCOW デサントはモスクワ五輪に協力しています。

発売元/株式会社デサント

世界女子ジュニア選手権に参加して（上）

東京重機　寺西富美枝

今回、私はこの遠征で、いろんなことを勉強しました。ハンドボールはもちろん、人間関係といろいろです。それに、日本を離れて三週間、まったく日本とはちがう生活をしたということが、私のこれからの人生のよき思い出として残るでしょう。

西ドイツのミンデンの町の小さくてかわいい家、私も見ているとあんな家がほしくなってきて、家の中がどういうふうになっているのか見学してみたかったです。

そしてヴェルツヴルグでの買物日本円ではないので、お金の価値がわからないので、どんどん使ってしまい、あとから大変苦労をしました。

でも、言葉はしゃべれなくてもどうにか通じ、大変楽しかったです。

ユーゴスラヴィアという国を私は全然知らなかったので、どういう国かと期待をして行ったのですが、期待がはずれて残念です。

私が不思議に思ったのは、日曜日というかき入れ時に、どうしてお店が休みなのかということです日本では、まず考えられないことだと思います。

それと、試合会場に行って、サインを頼まれた時には、いささかびっくりしました。

でも、ユーゴの人たちは、みんな日本を応援してくれて、大変嬉しかったです。

今回、ユーゴは三位でしたが、また次には、優勝もできるのではそして、日本も少しでも上位進出ができるように、これからの選手に期待したいと思います。

最後に、嶋田先生、白神先生、樫塚先生、高野先生、大変お世話になりありがとうございました。今回の経験をいかし、これからも一歩一歩頑張っていきたいと思います。

日立栃木　水上清美

生まれて初めての海外遠征で、何もかもがめずらしく、その反面とても不安の大きかった遠征でした。まして私は、いちおう名前だけでしたが、キャプテンという任務を命ぜられました。

遠征前に外国の人たちは、日本人よりもはるかに大きく、技術的にもすぐれていることは言われていましたが、実際に自分自身の体で体験してみて思った事は、私の想像していたよりも、はるかにスケールが大きかったです。特に上位チームを例にとると、パス回しにしても、相手の次のプレーがしやすいようにどんなに体勢がくずれていても正確にパスをしていたパスした後の位置取りも早く、いつ、どこでボールが来てもいいようにステップを踏んでいた。フェイントも、大してスピードはないのですが、フェイントをかけた一歩が日本人よりも大きいために、ついていけても後追いとなり、もち込まれてしまうのでした。ポストに対しても、ポストにボールが入れば一点取られたと思えと言われた通りになってしまった。体格の違いで、止めようにも止められなかった。攻撃時も外国人のステップワークが早い為になかなかすき間が出来ず、セットの攻撃で苦しんだ。が、日本のお家芸である速攻は有効であった。東独やソ連等にも速攻というプレーはありましたが、日本のようにクロスで速攻をもって行った所はなかった。視野外からの回り込みやスカイプレーも有効だった。

私自身としては、休養日の次の日の練習（試合）のあり方―内体的と精神的（頭の判断）のバランスについて―、ゲームの運び方―点数と時間の関連―、相手が一人退場した場合の攻撃の方法―ポストを2人入れて、2～3人のコンビ攻撃―、一線DFの攻め方―サイドへひろげ中央を割る―、大きい人に対してのDFの方法―プレーをする前に詰めるプレスディフェンス―等、色々勉強になりました。

この遠征でいちばんくやしかった事は、最終戦のノルウェー戦の時に、一点差まで追い上げた時に犯してしまった私のパスミスですあれで試合の流れはすっかり変わってしまった。時間的にもあと5～6分を残す時で、あの凡ミスがなければ、もしかして勝っていたかもしれなかったのです。上級生として、とっても恥しく、私自身としても大変くやしい凡ミスでした。

日立栃木　大高良子

私にとって生まれて初めての海外遠征、長時間、飛行機にゆられ4度の機内食に苦痛を感じて雲海とまっ青な空を見つめて、興奮してようやくたどりついて第一歩の地、西ドイツミンデン州の片田舎家の造りからしてロマンチックであのゴミゴミした日本とは大違い街の通りを歩けば、落ち葉が舞い車もあまり通らず、静かなたたずまいに全員ため息の連発。さすがに食事があわないのは残念ですがホテルのレストランでのサービスは大変良かったように思える。

時差ボケのトロンとした目をこすって翌日早速試合。他国にての第一戦、これがまた30分ハーフと聞いてしまっ青。でも行く途中どうのこうのいっても、アップになると目の色が変わり、本領を発揮して走る走る。

まともに合わせも何もしないわりには、けっこううまくいっていた。前半、日本の攻撃はまずまずスムーズだったが、ディフェンスになると、ポストへのパスが入りなだれ込まれて得点かペナルティーか、小さい日本人にとってはちょっと不利なようです。後半日本の18番である速攻が出はじめるとミンデンチームもさすがにディフェンスに戻ってからゼイゼイハーハーしていました。外国勢の攻撃パターンはたて中心で、もしかして日立にソックリなのではないでしょうか。

それにしても、はじめてのゲームということで、みんなかなり緊張していたし、固くなっていたことは事実で、日本18－17ミンデンと点数的にも危ないゲームでした

ビクター　岩城由江

初めての海外遠征、混合チームの長期遠征、そして日本に於いて

何も練習することができずに出発というのは、期待を持つ事よりは不安の渦の中にいる事でした。

これで本当にゲームが出来るのだろうかという疑問までをも感じていましたが、いざ日本を離れてみると、心の中の重みもどこ吹く風というもので、いつの間にか笑顔にすっかり変わっていました。

長時間の空の旅疲れ、時差ボケなどなんのそので、敵地西独へ乗り込んだ。

西独では日本の体育館とあまり違いすぎる為の驚き、ボールの違い、30分ハーフのゲームと日本に対しての悪条件を感じさせられました。

しかし、外人に対するコンプレックスをゲーム前まで持っていた私もすっかり消え去り、逆に心のどこかに普段よりも甘えさえ覚えていたと思います。

それが、私のノーマークシュートのミスになっていた気がしないでもありません。

西独のチームは、やはりセットプレーが中心で、ヴュルツブルグ以外はポストが主で、ポストのボールに対しての合わせは素晴らしいと思いましたし、ヴュルツヴルブの9番の選手は独特な跳躍力、耐久力、そしてスピードのきれ、あのプレーはもう一度見てみたいと思います。

西独の地の歓迎は、どこにも心暖まるもので、私の心深くいつまでも残るものと思います。

そして、本大会会場地ユーゴスラビア・コンパは、西独とは違って未開発地の貧困生活をつくづく感じさせられました。

その中で、JR選手権の幕は開かれた。自分達では、西独戦から思って、いくらかいけるのではと考えてもみましたが、実際Aブロックの中の壁は厚かった。

他のチームはやはり大きく、力強く、たくましかったが、それでもゲーム内に於いては、日本も他チームに対して、苦しめる事が出来たと思います。

西独に敗れて、順位決定リーグに入った時は、くやしさと意地がかたまりとなっていました。

順位が8位になった時、皆の心に欲が出て少しでも上をと頑張ったと思いますが、結局、結果的に10位だったけれど、私は全チームの中で一番小さな日本が、最高得点できたという事が、今回の最大の喜びだと思います。

そして日本が、世界に対しても対応出来る自信というものが生まれたと思いました。

その得点も、主は速攻、補助へのクロスプレーは、日本の特長としておおいに生かすべきものだと思います。

また他のチームの得意とするポストプレーの強引さは、日本にとってまだ足りない部分ではないかと思いました。

大会が終了して、他のチームと親しくなれた事は、言葉がわからなくても、心が通じあう事ができたと思います。

また休日などの野外活動も印象深く、この遠征に参加できた事がこれからの私の土台となり、その上に積み重ねて行けるようにしたいと思います。

ジャスコ　山本 二三代

10月7日の朝午前11時50分頃、日本を離れ、10月26日の午後5時頃日本に着きました。

この20日間で私は一体、何を勉強してきたのでしょうか?、

第一に教えられたことはチームプレーであって、個人プレーではない。チームワークという一つの輪を教えられたようです。

世界ジュニア選手権に入る前に西ドイツで4戦の練習試合を行ないました。

日本で全然練習もしていないチームがここへ来てどうなるか?私は心配でした。でも今なんとかやっていけたのは、やはりチームワークがあったからだと思うのです。

西ドイツでやった4戦、まず第一戦目のミンデンクラブに12対9 6対8＝18対17で勝った時は、自分達にもできるんだという考えが浮かび、すごくうれしく思いましたね。第二戦目、グレーベンというクラブと試合をしました。11対6、7対10＝18対16で勝ちました第三戦目はブンデスリーガカーデルというところと9対10、5対8＝14対18で負けました。何とも言えないくやしさでした。

西ドイツでの最終戦はアールッシュというチーム、14対7、13対7＝27対14で勝ちました。この4戦はあくまでも本戦の為の練習試合です。もっといろいろなことをためしてみるんだったとあとから後悔しています。

ドイツの皆さんはとても親切でした。もう一度皆さんに逢いたいと思っています。

いよいよ本戦です。まず初めはハンガリーとです。この試合は50分間何をしていたのか全然わかりませんでした。

ソ連、西独、オランダ、オーストリア、アメリカ、ノルウェーという順で試合を行ない、どの試合も自分に満足な試合はなかったように思います。

いろいろな国の方と友達になれいろいろと勉強になったようです万が一、また海外遠征ができるならば、今度は違った面でいろいろな人と接してみたいと思います。

本当に思い出深い遠征でした。

ジャスコ　矢部 登茂子

10月7日出発から10月26日成田到着まで、約20日間、見るもの聞くものが初めてで、ものめずらしく感じました。

まず、西ドイツでの4戦、戦績は、3勝1敗でした。が、自分では4勝できたと思う。しかし……ゲームをやってみて、ゲームの時間が遅かったし、外国のチームとやったことが数少ないし、床やボールが違い、バウンドした時思ったところにボールがはずんでこなく、西ドイツでは自分がゲームで何をしたのかわからないまま60分間の試合の内、30分も出た試合があっただろうか。

自分のできなさに情けなく感じました。せめてでも試合に出たその限られた数分間をといっしょうけんめいベストをつくしてコートに出るべきだった。―自分で今日はできると思ってゲームに望んでもやはりボールやスピードになじめないうちに終って、いや、メンバーチェンジされていた。―

西ドイツの4戦が終り、いよいよ目的のユーゴへ。西ドイツでのできなかった分を本番でという気持でユーゴへと。

やはり西ドイツでやったチームより迫力もあり圧倒されていた感じ。

西ドイツでゲームをしたので、

床、ボールには少しはなれていたが、やはりボールのスピードの速さにはついてゆけなくジャンプしていても一瞬の間に手を通過してゴールイン。なんとみじめな…。

必死にボールに飛びつこうと思いジャンプしてもタイミングが違い、いつもみのがしていました。本当に私たちと同年代なのかと疑いたくなるくらいで、あとから年齢を聞くとなんと私たちよりも年下、またもみじめ、でもみんなと仲よくなれてよかったです。

全体的に試合時間が短かかったたった一時間の練習、しかし、練習が練習で終った感じでただ時間がたったから練習が終ったようでミスが多く、なんとなくなれあいの空気があったようでした。

それだからゲームでも、パスミス、キャッチミスが多く、シュートまでいかなかったケースがなかったように思う。ゲームの中で調子が悪くなった時のリード役もいなく、まとまらなく攻撃なんか個々がやっていたように思う。やはりしめる人がいなければいけないと思いました。

それとこの大会、ポストに落としてくるのが多く、粘り強さもありポストにはいると必ずといっていいほどゴールインかペナルティ。そのためペナルティがとても多かった。

ペナルティなど、はいってももと待つのではなく自分からしかけていくこと、ノーマークも同じそれと前にも書きましたが、自分ではジャンプしているつもりでもボールにとどいていない。やはり位置取りが悪く、日本の感覚でやっていたからだと思います。

最後になりましたが、いろいろご指導していただいた先生方、ありがとうございました。この遠征で体で覚えたこと、勉強になったことを忘れず、これからに役立たし、頑張りたいと思います。

大崎電機　石井　美沙子

私達は10月15日から23日まで、ヨーロッパはユーゴスラビアで行なわれた第2回世界選手権大会に出場するため、10月7日AM11：45に予定の出発時間を少々遅れて新東京国際空港から出発した。

10月8日から14日までは西ドイツで本大会の為の練習マッチを行なった。ある意味ではとてもきつい毎日だった。

なぜなら夜7時か8時ころからゲームをし、後、レセプションがあり、夜中ホテルにもどり、次の日の午前中、又、次の町へ移動するという連日だったから。

最初のころは緊張していたせいか、あまり体の疲労は感じなかったが、だんだんなれてくると、少しきつかった。移動のバスの中や列車の車中ではいつも寝ていた。又、少しでも時間があるからと、ちょっと横になると、ゲーム前であろうが、すぐ熟睡した。「きつい、きつい」とは言うが、みんな同じ。私だけがきついのではない！といつも自分に言いきかせた。それに私達は若いんだと思い頑張った。

そうこうしている間に、8・9・11・12日と4試合が終った。3勝1敗となかなかの試合だった。この期間中、みんなはだいぶん外人というものになれたことと思う

10月15日～23日、私達の目的である大会が行なわれた訳だが、初めの3日間はグループ別のリーグ戦でした。

15日対ハンガリー　14－20
16日対ソ連　13－25
17日対西ドイツ　8－14

そして18日は中休みの日でしたあいにくの雨でしたが、プリズレンという古びた町に行き、休んで12時半ごろ又、バスでシャーラ山という2200mの山にのぼり、ブジレッザというスキー場で有名だとかの山荘に行き、昼食をとった。この山に登るにはヘアピンカーブみたいなものすごい急坂をくねくねとのぼりました。下を見るとこわかった。それに霧が出て、前が見にくい所もあり、二重にこわかった。雨のせいか、これまでになく、肌寒い一日でした。そして19日からは、順位決定リーグでした。

19日対オランダ　21－14
20日対オーストリア　17－9
22日対アメリカ　31－14
23日対ノルウェー　19－24

21日はバスで20～30分位の所にあるリピヤンという鐘乳洞へ行った。ここには世界に一つだけという、かわった現象があるという。たしかにすばらしいものだと思った。が、きもち悪い所だった。

全試合七戦行ない、3勝4敗という結果でした。（第10位）

全体を私なりに反省してみると第一に小さい私達の体格的ハンディをどう補うかというと、早いつめと速い戻り、ポストはほぼマンツーマン、間を割られたら得点かペナルティになるということを、認識して、攻撃は速いボールをまわして、ディフェンスをかきまわし、間をねらって不意打ちのシュートを考える。又、ボールをもたない人のホロを考えた動きをし、良いポジションをとるようにすることだと思う。

そして私達は……。攻撃の時、ボールまわしはスムーズにつながり、前より点はとれるようになったが、お家芸である速攻の出る本数が少なくなったように思う。立ち上がりが悪く、その時にとられた点差があとあとまでひびくというケースも少なくなかった。又若いがためにというファインプレーやイージーミスも目だち、らくに点をとれるところで取らず、自分で自分の首をしめる場合もあった。

でも何やかんや言ったが、この大会に出場したということは、私の選出生活にものすごく勉強になったと思う。出る時間は少なかったが、外から見て勉強することができた。見て勉強することも大切な貴重な事だったと思う。これからは、この体験を頭の中にしまっておくだけではなく、体でやってみたいと思います。

ブラザー　山村　雅子

全日本ジュニアチームは、実業団、大学生のより集りのチームです。海外に出てゲームをするという事が、初めての人間ばかりである。

日本でゲームをするのとは違い環境も食生活も変わり、良いコンディションでゲームに望めるかどうかと心配事がいろいろありました。でも、大きな怪我もなく病気もせず、遠征を終えた事が一番であった。

十月七日に成田を出発して、西ドイツへ入り、四試合というゲームを消化しました。西ドイツではゲームをするにも移動ばかり。それに、日本とは違い、ゲームとい

うものをみんなで楽しむという感覚で、大体ゲームは夜遅く始まるのです。

ゲームをしてみて、肌で感じた事は、ああ、自分はなんて小さいのだろうと思いました。

それで、小さいなら小さいなりに走らなくてはと、こんな事を頭に入れて、ユーゴスラビアに入りました。

ユーゴスラビアという国は、共産国であり、西ドイツに比べてとても貧乏であり、まだまだ未発達な国のように思われました。

外人を相手にして、まず身体の大きいのに驚きました。身体の大きさプラス、リーチの長さに、身体を使ったプレー、フェイントから、なだれ込むという型です。

手だけでディフェンスなどしたものなら、ただちに振り払われてしまいます。それに、サイドシュートの確率の高さには、目をみはるものがあります。手を大きく振り回すようなシュート、少しでもあんなシュートが打てたらと思うばかりです。それと無理にもボストへボールを落して、そのボールを取ったら得点ないしペナルティを持って行かれてしまいます。

外国選手のプレー、考え方・精神力、見習う点がたくさんあるように思われます。自分の力がどこまで通用するのか、外国へ行っていろいろ大きな経験をしました。この経験を生かして、これからもっとハンドボールに対して見方、考え方を変えて行きたいと思っています。

ジャスコ　辻本典子

私にとってこんな長い期間の、そして海外遠征というすばらしい経験ができました。

西ドイツでの一週間はゲームの時間が大体夜の八時頃からだった為、その後夕食をしてホテルに帰るのが12時頃だったので、何か息を抜けず、けたたましい毎日だった。でも言葉は通じなくても、何か通じ合えるものがあって、それにとっても日本人に対して好感を示してくれた事がうれしかった。それに食事にしても、私たちが食べやすいようにとアレンジして作ってくれた料理もあった。

ユーゴに入ってからは、他の国の選手とみんな同じホテルで日がたつにつれて親しくなり、友達もでき、他の国の人の部屋へ遊びに行ったりして、片言の英語でしゃべることがとっても楽しかった。あまり言葉が通じなくても、やはり同じスポーツ選手、通じる事は大体わかるし、私たちが何を言おうとしているのか、相手が何を言おうとしているのかはわかるようになった。それとやはり外人の選手は大きく、とても大人びていてとても20才以下にはみえなかった15才の子も17才の子も多くてびっくりした。そして恥しくも思った私たちは17～18才であんなにうまくなかったし、それにちっとも不安定な所もなく堂々と落ちついてプレーをしていた事、世界の私たちと同年代のプレーをこの目でみて、いろんなチームを見ることができ、ほんとうに良かったと思っています。そしてどの会場にいっても日本を応援してくれ、日本人に好意を示してくれた事がうれしかった。そして誰も重いケガも病気もせず、帰国できたことは良かったと思います。これからこの目でみたこの身体で味わった事を少しでもやって行きたいと思います

ブラザー　竹内保子

▽10月11日　晴れ

朝から今日は歓迎された。

ここの市と大津市が姉妹都市ということで迎えてもらった。町を歩いていると、赤いＪＡＰＡＮを着ていたせいか、みんながみていく。それにもめげず、ショッピング。こちらに来て初めてではないかな？

でもおみやげらしきものはさっぱりわからず、ただみているだけ安いのか高いのかもわからない。

夕食は今日、対戦したチームとのレセプションとなった。

国民体育大会における種別ローテーションに関するアンケート　集計結果

アンケート配布数
各都道府県協会各1　計47
アンケート回収枚　34
(72.3%)

▽数回答内容

A、「47都道府県参加種別は成年男女の隔年ロ、テーションとすべきである」と答えたもの…16
(47.1%)

理由。少年男女には、高等学校選手権大会、高等学校選抜大会などの全国大会があるが、成年男女とくにクラブチームには全国大会がないので、成年男女の隔年ローテーションとすべきである。

。成年女子の育成のために成年男女の隔年開催とすべきである。

。成年男女の隔年ローテーションとし、国体から日本リーグ所属チームを除く。

B、「47都道府県参加種別は、成年男女、少年男女の4種別のローテーションとすべきである」と答えたもの…18（52.9%)

理由。4種別とも平等にあつかうべきである。

。底辺の拡充のために少年もローテーションに加えるべきである。

※以上の結果から見る限り、「成年男女のローテーションにすべきである」という意見と「4種別のローテーションにすべきである」という意見は、わずかな差はあるにしても相半ばして決定的な数には至らない。どちらの回答者にも国体に「日本リーグ所属チームが出場を辞退すべきである」という意見のあることが注目される。

▽実施方法について、

C、「59年度39回国体まで成年男女の隔年ローテーションとし40回以降についてはあらためて検討する」と答えたもの…9／16（Aの回答者）

D、「56年度36回を少年男子、37回を少年女子とし、38回以降については、あらためて検討する」と答えたもの…1／34

B－1、「56年度36回少年男子、37回少年女子、38回成年男子、39回成年女子…の順でローテーションをする」と答えたもの…14／18（Bの回答者）

B－2、「56年度36回成年男子、37回成年女子、38回少年男子、39回少年女子…の順でローテーションする」と答えたもの…3／18（Bの回答者）

ニューカレドニア遠征記

立石電機―井　薫―

南太平洋の仏領、ニューカレドニアに、一月の二十三日から一週間、ジャスコチームと立石チーム滞同で遠征してきました。

これはニューカレドニア、ハンドボール協会から日本ハンドボール協会に交流と親善試合を求めてきたものに、シーズンオフで基礎体力養成期間中の両チームが応じたもので、昨年の学生選抜につぐ二度目の日本チームの訪問となりました。

この遠征には日本ビクターチームも滞同を希望しましたが、生憎週一便の飛行機の座席の都合で無理となり、二月六日に単独での遠征となりました。いずれにしても日本女子チームの相つぐ訪問に彼地の協会も多忙であり、嬉しさもまた大きい様子でした。

成田から八時間の直行便で日本と逆の真夏の南太平洋の小島に降り立ちましたが、機中で準備した『ボン・ジュール』の一言で税関はフリーパス、大らかさと、抜ける様な青空がこの島の第一印象でした。

ホテルのロビーでの協会との打合せで、カレドニアの選抜チームと、ジャスコ、立石でリーグを行い、翌日は男子チームと日本選抜でもう一試合と決まり、続いて新聞社の取材をうけましたが、翌朝の新聞に両チームが写真入りで、大きく報じられますと、その日の午後から日系人の姿がホテルに多くなり、いろいろと御世話をいただく様になりました。

天国に一番近い島と呼ばれ、南十字星をまじかに見る事が出来るこの島は、ニッケルの世界有数の産出国で、日本からの移民の人達も最初は殆んど、そのニッケル発掘に従事され、大変なご苦労があったそうですが、日本人の勤勉さと云いますか、今では社会的地位も上がって、すばらしい雰囲気のニューカレドニア日本親善協会をつくり、今回の様なふれあいを大切にする、ゆとりを持てる様になったと、会長の中村さんが笑顔で語っておられました。

もう、二世、三世の時代ですから、顔だちも異り、言葉もフランス語が主で、通じないものの、祖父母の国のスポーツの若者たち（他の日本人旅行者といえば、殆んどが、アツアツの新婚カップルで当然の事ながら、この人達との交流はない訳けですから）と云う、特別の親しさ、懐しさからくるものでしょうが、親善試合のスタンドからは日の丸を打ちふりながら応援をしてくれたり、各々の家庭に呼んで、海の幸や、日本では珍らしい鹿の肉を、ごちそうになったりで、ハンドボールでの交流という、初期の目的の他にオーバーに表現すれば思いがけない、国際親善が出来得た事に感激しました。

さて親善試合の当日、会場に着きますと、一寸様子がおかしいので訳けを聞きますと、カレドニアの選抜チームが、日本とのレベルの差にびっくり、尻込みをしていまして、結局予定を変えて、カレドニア女子の紅白ゲームとジャスコ、立石のゲームとプログラムが変ってしまいました。

ハンドボールが始まって三年目ではやむを得ない事情に思え、承諾しました。

そのせいもあってか、翌日の男子とのゲームは大はりきりで、ジャスコ主体の先発で始まったゲーム、松下君のアンダーシュートが決まり先攻しますと、もう真剣そのもので、スタンドは大賑わい。

男子チームの中に、2m近い長身者でボールテクニックも抜群のプレイヤーがいるので、たずねますと、彼はフランス本国のナショナルチームのエース格の選手で、



男子チームと対戦する日米女子チーム　　　写真提供　現地新聞



日本チームを応援する日系人　　写真提供：井　薫

一年前に、たまたまこの地に遊びに来てすっかり気に入り、一度帰国の後ち再び訪れて、住みついてしまったとか、その彼の大活躍もあって、29対22で敗れましたが、コート、スタンドが一体となった楽しいゲームでした。

ハンドボール協会主催のパーティで、ソ連問題がオリンピックや世界選手権に与える影響など、現実の問題も話題になりましたが、将来、南太平洋カップとでも名付けた大会を開けば、ヨーロッパはもとより、アメリカ、カナダ、アフリカ、南米、アジアなど比較的集まりやすいのではと申しますとタヒチあたりを中心にそんな夢も持っているんだと答えていました

タヒチと云えば、別の機会でしたが、フランス女子ナショナルの話しになり、監督のトーマス氏の名前が出ましたので、彼とは世界選手権その他で数回戦った相手で、十年来の友人だと答えますとそのトーマス氏は今夕タヒチに来ているという来で前述の男子ナショナルのエースの件といい、これらの事を考え併せても、南太平洋に於けるハンドボールの普及は急ピッチであると感じました。

シーズンオフの我々の目的は、半分がトレーニングで、残りの半分がバカンス。

砂浜では、半裸のお年寄りたちが、陸上競技の砲丸の様なボールを、小さなコルクの的に近ずける単調なゲームを、一日中くりかえしている。本当に気の遠くなる様なのんびりとした風景の中での生活でした。

船で二時間のウエン島はヤシの木の葉が南風にたえずゆれる。珊瑚礁のきれいな島ですが、泳ぎ疲れた午後、近くの山で緑色の宝石がとれるという事で、有志が登山その探し方がユニークで、何の変哲もない、ひとかかえの石を、大きな石に、ぶっつけて割れた所を見て、緑の濃いものを探す方法であちらで、ゴツン、こちらでゴッンと割るのですが、さっぱり。

良い加減疲れはて、それでも、自分なりには、これは本物と、思えるものを、みんな各々に抱えて下山、島の人に鑑定してもらうのですが、すべて駄目、それでも楽しい想い出だけはしっかりと、日本まで持ち帰りました。

カレドニア一番の町のヌーメアを歩きますと、こちらで桜と呼ばれる、火焰木（フラン・ボワイアン）の真紅の花は散りはじめていましたが、夾竹桃やブーゲンビリヤ、ハイビスカスといった南国特有の花が、白壁の家並みに映えて異国情緒をかきたててくれました

一週間の滞在を終え帰国の日は日本親善協会、ハンドボール協会の方々も何んとなく落着かず、唯一の日本料理店での最後の夕食の席にも、次々と顔を出していただき、プレゼントや別れの挨拶、これが、約一時間の距離にある空港まで、引きつがれるのですからその暖かいもてなしは、感激以外の何ものでもありませんでした。

帰国して数日、ジャスコの鈴木監督から便りをいただき、滞同遠征もいいものですね、とありましたが、全く同感で、この体験を、大いに生かして、今シーズンにのぞみたいと思います。

最後にニューカレドニア協会といろいろ接渉いただいた、日本協会の境井先生に御礼を申し上げます。

テーマは「人間と機械」

「機械にできることは機械にまかせ、人間はより創造的な分野での活動を楽しむべきである」……
これが立石電機のモットーです。


技術の頂点オートメーション機器部品


産業用無人化システム


都市の交通制御システム


鉄道の駅務自動化システム


銀行の窓口省力化システム


ガソリン・スタンドのPOSシステム




オフィスのコンピューター・システム

小売店頭の電子レジスター

立石電機株式会社／本社
〒616 京都市右京区花園土堂町10
TEL 075(463)1161大代

日本が生んだ世界のボール

タチカラミムレスボール

日本ハンドボール協会検定球



東京・メキシコ・モントリオール・モスクワと、いつのオリンピック大会でもバレー、バスケット等、世界で唯一社の公式試合球に指定されているタチカラの輝かしい実績は、世界に誇る日本のボールメーカーです。
ハンドボールの歴史と共に縫ボールの時代からボール一筋に手がけて来たタチカラのハンドボールは一味違う中空製法です。(チューブが離てる)


JOO-MS-4-77-3

TACHIKARA タチカラ

タチカラ株式会社

営業所　東京・大阪・名古屋・福岡・札幌

各地の記録

男子は岐阜商、女子は岐阜南

▼岐阜地区総合大育大会（十月・岐阜南高校）

▽男子準々決勝
県岐商 19－6 市岐商
岐高専 15－9 岐阜東
各務原 9－7 羽島
岐阜工 20－4 岐阜

▽同準決勝
県岐商 17－12 岐高専
岐阜工 15－5 各務原

▽同決勝
県岐商 12（5－4、4－5、3－2）11 岐阜工

▽女子準々決勝
富田女 12－6 長良
岐阜南 15－5 岐山
羽島 4－3 本巣
県岐商 16－9 岐阜工

▽同準決勝
岐阜南 14－9 富田女
県岐商 7－5 羽島

▽同決勝
岐阜南ク 7（3－2、4－3）5 県岐商

男子は市川

▼千葉県高校新人大会（十二月）

▽男子準々決勝
八千代 19－18 東葛飾
柏 23－12 我孫子
市川 10－6 船橋旭
小金 25－9 東邦

▽同準決勝
柏 26－7 八千代
市川 20－13 小金

▽同決勝
市川 16（5－5、11－4）9 柏

▽女子準々決勝
昭和 33－2 市立柏
流山中央 10－9 東邦
生浜 7－3 佐原
和洋 14－1 佐原女

▽同準決勝
昭和 9－2 流山中央
和洋 15－3 生浜

▽同決勝
和洋 15（8－5、7－5）10 昭和

境港工、大勝す

▼全国高校選抜鳥取県予選（十一月）

▽男子準決勝
境港工高 17－7 倉吉東高
境高 17－12 米子東高

▽同決勝
境港工高 29（13－5、16－11）16 境高

▽女子準決勝
米子南商 13－3 倉吉産
倉吉西 14－3 米子東

▽同決勝
米子南商 12（6－2、6－1）3 倉吉西

女子は添上

▼昭和54年度奈良県秋季大会（十一月）

▽男子準々決勝
郡山 14－11 奈良工
橿原 16－9 正強
畝傍 21－5 桜井商
奈良 22－8 一条

▽同準決勝
郡山 9－7 橿原
畝傍 13－8 奈良

▽同決勝
畝傍 12（8－6、4－4）10 郡山

▽女子予選リーグ
郡山 15－3 帝塚山
郡山 14－3 一条
帝塚山 12－9 一条
添上 17－1 生駒
添上 14－3 十津川
十津川 15－7 生駒

▽同決勝
添上 9（4－0、5－3）3 郡山

女子は群女短附属が優勝

▼群馬県高校新人大会（十一月）

▽男子決勝リーグ
前橋商 22－11 下仁田
前橋商 24－8 藤岡
下仁田 18－7 藤岡

【順位】①前橋商②下仁田③藤岡

▽女子三位決定戦
吉井 4－3 桐生女

▽同優勝決定戦
群女短大附 7（4－2、3－4）6 下仁田

【順位】①群女短大附②下仁田③吉井

学法石川、大勝す

▼福島県高校新人大会（十一月）

▽男子準々決勝
学法石川 14－11 郡山北工
聖光学院 19－13 好間高
内郷高 18－10 福島北

▽同準決勝
学法石川 15－14 安積商
聖光学院 19－13 内郷高

▽同決勝
学法石川 22（12－7、10－3）10 聖光学院

▽女子準々決勝
小野高 7－5 梁川高
安積商 8－7 緑が丘高
長沼高 11－5 県立石川
福島女 9－1 本宮高

▽同準決勝
安積商 9－5 小野高
長沼高 8－0 福島女

▽同決勝
長沼高 8（2－2、6－1）3 安積商

男子は野辺地勝つ

▼青森県高校秋季ハンドボール選手権（十一月・野辺地）

▽男子準々決勝
青南 10－8 青森
青東 20－4 野辺地工
七戸 14－13 鰺ケ沢

▽同準決勝
野辺地 17－12 青商
青東 7－3 青南

▽同決勝
野辺地 17－12 七戸
野辺地 22（12－2、10－9）11 青東

▽女子準決勝
青西 10－8 野辺地
七戸 5－2 青中央

▽同決勝
青西 11（6－3、5－5）8 七戸

男子は氷見

▼富山県高校新人大会（十一月）

▽男子準々決勝
富山南 24－18 雄山
氷見 36－10 八尾
高岡商 28－9 伏木
高岡日大 11－7 富山

▽同準決勝
氷見 28－13 富山南
高岡日大 17－13 高岡高

▽同決勝
氷見 20（9－3、11－3）6 高岡日大

▽女子準々決勝
高岡女 9－8 高岡商
小杉 7－3 富女短附
富山女 21－7 富山北
有磯 18－3 高岡日大

▽同準決勝
小杉 12－5 高岡女
有磯 15－5 富山女

境港工、優勝

▼鳥取県高校新人戦
▽男子準決勝
境港工高 17―7 倉吉東高
境　高 17―12 米子東高
▽同決勝
境港工高 29（13―5、16―11）16 境　高
▽女子準決勝
米子南商 13―3 倉吉西高
倉吉西高 14―3 米子東高
▽同決勝
米子南商 12（6―2、6―1）3 倉吉西高

女子は佐世保商業

▼長崎県高校新人戦（十一月）
▽男子準々決勝
瓊浦高 7―6 佐北高
口加高 38―10 波佐見
長工高 13―12 西海高
佐西高 20―5 佐商高
▽同準決勝
瓊浦高 9―6 口加高
佐西高 16―8 長工高
▽同決勝
佐西高 16（7―4、9―2）6 瓊浦高
▽女子準決勝
島農高 7―5 佐北高
佐商高 11―6 日大高
▽同決勝
佐商高 7（3―2、4―1）3 島農高

男女とも総社優勝

▼第34回岡山県高校ハンドボール新人大会（11月・津山商業高校）
▽男子準々決勝
総社 10―6 大安寺
水工 12―11 倉工
倉商 10―9 岡工
操山 12―8 児島
▽同準決勝
総社 10―9 水工
倉商 17―8 操山
▽同決勝
総社 6（2―0、4―1）1 倉商
▽女子準々決勝
真備 4―3 落合
児島 6―5 倉商
総社 8―5 芳泉
西大寺 7―6 天城
▽同準決勝
真備 13―6 児島
総社 7―6 西大寺
▽同決勝
総社 7（3―1、4―4）5 真備

土浦一、辛くも勝つ

▼茨城県高校新人戦（十一月）
▽男子準々決勝
笠間 13―10 太田一
土浦一 14―11 日立一
土浦三 16―10 石岡一
岩井 27―5 竜崎一
▽同準決勝
土浦一 17―16 笠間
岩井 12―9 土浦三
▽同決勝
土浦一 11（3―5、6―4、1―1、1―0）10 岩井
▽女子準々決勝
北海道二 14―7 岩井
結城二 15―3 笠間
鉾田二 13―7 下妻二
麻生 17―6 石岡二
▽同準決勝
結城二 8―7 水海道二
麻生 7―6 鉾田二
▽同決勝
麻生 8（3―7、5―0）7 結城二

小松工、3年ぶりの優勝

▼石川県高校新人ハンドボール大会（十一月、石川県体育館・小松市体育館）
▽男子準々決勝
小松工 24―9 泉丘
向陽 20―14 加賀
小松 25―5 北陸大谷
星稜 16―10 金商
▽同準決勝
小松工 22―4 向陽
小松 15―8 星稜
▽同決勝
小松工 19（4―8、15―4）12 小松
▽女子準決勝
小松市女 30―0 松任
小松商 6―5 金商
▽同決勝
小松市女 23（13―2、10―6）8 小松商

男子は此花、女子は四天王寺

▼第31回大阪高校新人大会（11月・12月）
▽男子準々決勝
住吉 21―11 花園
摂津 10―7 都島工
此花 22―3 春日丘
桃山 15―8 大阪学院
▽同準決勝
摂津 13―5 住吉
此花 12―10 桃山
▽同決勝
此花 14（7―4、3―6、1―0、3―0）10 摂津
▽女子準々決勝
枚方 15―4 寝屋川
四天王寺 10―3 天王寺
鶴見 5―3 城南
春日丘 17―4 桜塚
▽同準決勝
四天王寺 3―2 枚方
春日丘 3―2 鶴見
▽同決勝
四天王寺 4（3―1、1―1）2 春日丘

岩手フェザント初優勝

▼第22回岩手県選手権（十二月）
▽男子準々決勝
岩手教員ク 19―15 盛岡一高
岩手フェザント 17―15 盛岡商高
花巻ク 19―11 商友会
▽同準決勝
花巻北高 16―12 釜石南高
岩手フェザント 22―12 岩手教員ク
花巻北高 14―13 花巻ク
▽同決勝
岩手フェザント 24（11―10、13―6）16 花巻北高
▽女子準々決勝
岩手桐花ク 14―3 三英会
岩手大 10―6 岩手女子高
黒沢尻南高 17―8 釜石南高
花巻南高 16―1 花巻北高
▽同準決勝
岩手桐花ク 12―6 岩手大
花巻南高 10―3 黒沢尻南高
▽同決勝
岩手桐花ク 9（4―3、5―2）5 花巻南高

男子は米原、女子は彦根

▼近畿ジュニア選手権大会予選（一月・彦根工業高校）
▽男子準決勝
彦根東高 17―10 能登川高
米原高 11―9 八幡工業高
▽同決勝
米原高 15（8―8、7―5）13 彦根東高
▽女子準決勝
彦根南高 8―5 大津商高
彦根西高 10―6 守山女高
▽同決勝
彦根南高 4（2―0、2―3）3 彦根西高
※男子・米原高校、女子・彦根高校はそれぞれ2月10日の近畿大会の予選に出場

興奮再現。

持ち運んで楽しむか

BIG SOUNDS
実用最大出力4.2W
TRK-8030 ¥43,800



クリアでナチュラルな音質の実用最大出力4.2W(2.1W＋2.1W、EIAJ/DC)のパワー。12cmウーハー(中低音域用)と3.5cmツイーター(高音域用)採用のスピーカー・システムが再現するリアルなパワーサウンド、心ゆくまでお楽しみください。

- ●FM／AM2バンドラジオつき
- ●(クロム／ノーマル)テープセレクター採用
- ●フルオートストップ
- ●外部スピーカー端子つき（別売り APS-80)使用
- ●ラインイン、ラインアウト端子、マイク端子(R用、L用各1個)つき

ステレオ パディスコ8030 TRK-8030 ¥43,800

●電源DC:9V(単1×6) AC:100V 50/60Hz カーアダプター(別売りD-70) ●大きさ 幅41.2×高さ25.6×奥行12(cm) ●重さ 5.0kg(乾電池含む)

システム パディスコ



組んで楽しむか

パディスコ8030はシステムアップできるラジオカセット。専用外部スピーカー(APS-80)の接続により、迫力あるステレオ・サウンドがさらに倍増。また、プレヤー(HT-320)を接続すればレコード音楽も楽しめます。(MM形カートリッジイコライザー MCE-70が必要)

- ●専用外部スピーカー、APS-80 別売り 2本セット¥11,800
- ●レコードプレヤーHT-320 別売り ¥25,800(レコードプレヤーを接続するにはMM形カートリッジイコライザー〈MCE-70〉別売り ¥4,500が必要です)

▲上の写真はステレオパディスコ8030をシステムアップしたものの一例です。

★カセットレコーダーで録音したものは、個人として楽しむなどのほかは著作権法上、権利者に無断で使用できません。

★商品のお問合せ、クレジットのご相談、カタログのご請求は、お近くの日立の家電品取扱店へお気軽にどうぞ。

品質を大切にする〈技術の日立〉

HITACHI CASSETTE RECORDER

HITACHI

日立家電販売株式会社 〒105 東京都港区西新橋2-15-12(日立愛宕別館) TEL(03)502-2111

日立クレジット株式会社 〒105 東京都港区西新橋2-15-12(日立愛宕別館) TEL(03)503-2111

★「日立カセットレコーダーの保証書」は必ずお受けとりください。お買い上げの際に、販売店名、ご購入年月日が記入されているかを、お確かめになり、大切に保存してください。

日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第一八三号
昭和四十年六月七日 [illegible]五五年二月二十五日印刷
第三種郵便物認可 昭和五五年三月一日発行
発行所 日本ハンドボール協会
東京都[illegible]区神南一ー一ー一
電話代表(467)七〇九七
振替東京六ー五八三四八番
編集兼発行人 荒川清美
定価三百五拾円（年間購読料三千三百円）